

## 大坂町奉行所の刑事判例(一)

—— 大坂城代土屋氏御用留による ——

藤原和

### はじめに

大坂城代は、城中を警備し、西国諸大名を監視するとともに、大坂町奉行および堺奉行の裁判事務を指揮監督した。大坂城代土屋氏御用留（大阪市立中央図書館蔵）は、大坂城代土屋采女正から老中に提出した文書の控と老中から大坂城代に宛てた達の写を綴じたものである。

土屋采女正寅直（一八二〇—一八九五）は、常陸土浦藩の第十代藩主で、徳川斉昭の従兄弟にあたる。天保十四年（一八四三）に奏者番、嘉永元年（一八四八）に寺社奉行に就任し、嘉永三年（一八五〇）九月一日から安政五年（一八五八）十一月二十六日まで大坂城代をつとめた。

「御用留」（十一冊）は、嘉永四年二月から安政四年十一月に至る。そのなかには、幕末の大坂町奉行所および堺奉行所の刑事判例が記されているので、関連する記録も合わせ、抜粋して紹介する。

なお、大阪の部落史委員会編『大阪の部落史』第九巻史料編補遺（平成二十年 部落解放・人権研究所）において、「嘉永五壬子年從正月至閏二月 御用留」を抄録している。

## 凡例

- 一、原本の体裁をできるだけ尊重し、本文を二段組みとして印刷した。
- 一、字体は、人名・地名等の固有名詞を除き、常用漢字のあるものは原則としてこれを用いた。異体字・変体仮名・合字はわかりやすく改めた。ただし、江、而、久、メなどは原本のまま残した。
- 一、本文には、読みやすくするために、読点（）および並列点（・）を付した。
- 一、表紙・朱書などは、「」を付し、その旨を（）で傍らに注記した。
- 一、原文の抹消部分は、左側に×を付してこれを示し、訂正がある場合は、右側にその字句を示した。
- 一、虫損などで判読不能の部分は、□で示し、推定した部分は「」で示した。
- 一、史料の一部を省略した場合には、（前略）（中略）（後略）と記した。
- 一、大坂町奉行所および堺奉行所の「死罪之科書」の罪人には、検索の便を図るため、五桁の通し番号を付した。上二桁は、科書の西暦下二桁、三桁目は、大坂町奉行所の罪人には「一」を、堺奉行所の罪人には「二」をつけている。下二桁は、奉行所別、科書に掲載されている順序を示す。
- 一、原史料には、今日から見てさまざまな被差別身分や障害者、女性などに対する差別的な語句や記述も含まれているが、史料的文献であるため、原文を尊重してそのまま掲載した。
- 一、史料は都合五回に分けて連載し、解説は五に掲載する予定である。

一 嘉永四年二月より四月迄 大坂城代土屋氏御用留

土屋采女正御役知  
攝州東成郡今福村

百姓

浅右衛門

入墨之上  
敲

(表紙)  
「嘉永四亥年」

御用留

二月分四月迄」

正月

(中略)

覚

一 摂州今福村百姓淺右衛門御仕置之儀、以別紙相達候  
間、得其意可被達候、以上  
正月廿九日

松平和泉守

松平伊賀守

戸田山城守

牧野備前守

阿部伊勢守

土屋采女正殿

柴田日向守

掛

本多加賀守

掛

一盜賊一件吟味御仕置、堺奉行相伺候趣、申上候書付  
但、町奉行共差出候書付老通

壱通

但、堺奉行差出候帳面壹冊

右之通、書付都合式拾通・御証文下書壱通・帳面三冊

進達之仕候、以上

二月十六日

御老中五人様

土屋采女正

致盜候者一件  
御下知之通、御仕置可申渡者  
病死仕候儀、申上候書付

掛

柴田日向守

本多加賀守

(中略)

摺州今福村百姓淺右衛門御仕置之儀、

以御別紙被仰下、則相渡候處、右淺右衛門

儀、去八日病死仕候付、存命二候者御下知

之通、御仕置可申付者三候段申渡候儀、

土屋采女正

入墨之上敲

土屋采女正御役知  
摺州東成郡今福村  
百姓

淺右衛門

右之通、御仕置可申付旨、御下知之趣、承知仕候、然  
ル廻、淺右衛門儀、去ル八日病死仕候付、存命二候ハ、  
御下知之通、御仕置可申付者三候段、今十三日一件之  
者江申渡候、依之申上候、以上

二月十三日

掛

柴田日向守

本多加賀守

二候段、去十三日一件之者江申渡候旨書付壱通、日向  
守・加賀守差出候付、進達之仕候、以上

盜賊一件吟味御仕置、堺奉行  
相伺候趣申上候書付

土屋采女正

盜賊一件吟味御仕置書壱冊、石谷因幡守差出御仕置  
之儀、黃紙下ヶ札を以相伺申候、依之右伺書壱冊入御  
披見相伺候、宜御差図被成下候、以上

二

四月十六日

(朱控)

泉州松尾寺村寅吉外老人致盜候吟味伺書

石谷因幡守

(中略)

(内表紙)

「泉州松尾寺村寅吉外老人致盜候吟味伺書

御扣(朱印)

石谷因幡守」

(黄紙)

「此寅吉・安藏儀申合、又者老人立、泉州内田村常七

外老人所畠地ニ番ニ入差置候蜜柑、又者商人店先ニ  
有之候衣類其外盜取候段、不届ニ付、兩人共敲申付  
候哉」

泉州松尾寺村寅吉外老人致盜候始末吟味致し候始末、  
吟味仕候趣、左之通ニ御座候

(久世)

久 大和守殿領分

泉州泉郡松尾寺村

去戌十二月十六日入牢

同月廿七日重病ニ付、下宿所預

亥武拾弐歳

同領分

泉州同郡内田村

右同断

亥三拾歲

安 蔵

右之者共、吟味仕候処、去戌十一月九日昼兩人申合、  
泉州内村名并持主名前不存蜜柑畠地ニ番ニ入差置有  
之候蜜柑式荷盜取、同月十二日昼兩人申合、同州内田  
村常七所持同畠地ニ番ニ入差置有之候蜜柑老荷盜取、

同十二月二日昼寅吉老人立、同州内村名不存古手商人  
家店先ニ有之候木綿衣類式盜取

(朱書) 「右被盜主常七相糺候処、申口符合仕、外被盜主共名所相知不申候」

右品之内、外々被頼候扱もの之趣申偽、蜜柑式荷者兩人々同州下條大津村嘉兵衛江都合代錢式貫式百八拾文、壱荷者寅吉ら往来之青物商人江代錢壱貫百文ニ壳扱、衣類者同人兼而知ル人同州萬町村喜三右衛門方江持行、外々壳捌之儀被相頼候得共、差當壳先心当り無之候間、重而參り候迄預り吳候様申偽、同人江預ケ置、右代錢申合候分者配分致し、兩人共不殘酒食ニ遣捨候

処、被捕候旨申之候ニ付、此外メリを固辞明ケ、度々盜致し候儀ニ可有之与再応吟味仕候処、右之外盜致し

候儀無之由申之候得共、右始末不届之段吟味詰候處、無申披旨申之候

(朱書)

「右者嘉兵衛・喜三右衛門相糺候処、申口符合仕、

嘉兵衛者品買取候上壳扱候由ニ而代錢壳徳とも差

出、喜三右衛門者預り候品差出候付、夫々取上置

申候、尤馴合候筋不相聞候得共、得与出所も不糺品嘉兵衛者買取、喜三右衛門者寅吉申聞候趣実事与存預り置候段、兩人とも不念ニ付、嘉兵衛者代錢損失申付、喜三右衛門者急度叱り置候様可仕候、且青物商人名前相知不申候、右喜三右衛門ら差出候品直積申付候処、銀拾匁ニ御座候、取上置候錢品主相知有之分者、追而落着之節渡遣候様可仕候」右吟味仕候趣、書面之通御座候、御仕置之儀黃紙下ケ札を以奉伺候、以上

亥二月

石谷因幡守

(中略)

覚

(中略)

一小判壱歩判吹直御用取扱、中野石見守代り本多加賀守取扱候様可申渡旨被仰下承知仕候儀、申上候書付

壱通

(中略)

(朱書)

「此地」(朱書) 一於堺去成年死罪之者并牢舍之者之儀、

堺奉行申聞候

[町] (朱書)

趣申上候書付壱通

但、町奉行共差出候帳面壱冊・書付壱通

一於堺去戌年死罪之者并牢舍之者之儀、堺奉行申聞候

趣申上候書付壱通

但、堺奉行共差出候帳面壱冊・書付壱通

一吟味六ヶ月以上未済儀、当地町奉行申聞候趣申上候

書付壱通

但、町奉行共差出候帳面壱冊

一十ヶ月以上吟味未済、四年以前申二月書上置候処、

落着仕候儀、当地町奉行申聞候趣申上候書付壱通

但、町奉行共差出候帳面壱冊

右之通、書付都合拾四通・御証文下書壱通・訴狀一通・

帳面四冊進達之仕候、以上

三月六日 土屋采女正

日向守掛

無宿

嘉永二酉年十月十九日入牢  
一獄門

柏原町の  
竹三郎  
戊三拾武歳

(中略)

於此地、去戌年死罪之者并牢舍之者  
之儀、町奉行申聞候趣、申上候書付

此者儀、死亡無宿多助申合、往来之男女を取巻、右  
之者共着用之衣類等剥取候始末、不届之科、翌戌年

土屋采女正

於此地、去戌年死罪之者科書壱冊、牢舍之者人數書付  
壱通、柴田日向守・本多加賀守差出候間、入御披見候、  
以上

三月六日

〔内表紙〕  
「嘉永二酉年大坂ニ而死罪之者科書

御扣(朱書)

柴田日向守

本多加賀守

正月廿一日行之

取遣捨候始末、追剝三紛敷仕方、不届之科、翌年正月廿一日行之

(五〇一〇二)

嘉永二酉年十月廿一日入牢  
一死罪

無宿

備中の

與助

戊武拾三歳

此者儀、行衛不知無宿音吉申合、往来人を欺金錢可

乞取与存付、兩人共船頭牀ニ相成、内本町橋詰丁伊  
兵衛下人善助儀下筋江便船相尋候様子を見請、乗船  
可為致旨申聞、船宿与偽泊茶屋安治川上壹丁目周助  
方江連行、酒肴飯燒女等為差出致遊興、善助江も相  
勸、及断候を押而為致飲食、右入用書付銀目過分ニ  
認直、同人江出銀之儀申聞、不承知ニ候ハ、存寄有  
之牀ニ仕成、強情申掛金錢乞取、猶不足ニ候迎其場  
之存付与者乍申、善助所持之品奪取、剩同人逃出候  
を音吉俱々追駆參、着用物を無牀ニ為脱裸ニいたし  
相欺候逆、此者着用之古單物相渡差返、其上周助方  
江も不足之代銀相払、右品之内壳払代金錢音吉与分

(五〇一〇三)

嘉永二酉年十二月四日入牢  
一獄門

無宿

藤三事

吉豊

戊武拾八歳

此者儀、行衛不知無宿庄次郎・同源次郎申合、人家  
表之戸石を以打割押入、家内之者起合候逆、攝州曾  
根崎村・天満船大工町ニ而者庄次郎頭取、脇差抜持、  
同村之内壹ヶ度者此者頭取、木切を持、金銀可差出、  
声立候ハ、可殺旨申威、錢品盜取候段、強盜之仕方、  
不届至極之科、翌戊午正月廿一日行之

(五〇一〇四)

嘉永二酉年十月廿九日入牢  
一死罪

無宿

京の

秀三郎

戊武拾六歳

此者儀、先達而致盜、於伏見入墨之上重敲相成、其後於當表不届有之、重敲、猶重敲入墨之上、兩度重追放申付候身分不慎、御構場江立入、鐵刀を帶、役筋手先之躰ニ相成、京橋五丁目吉兵衛方江罷越、捕

方役人出役先ニ而買上相成候趣等品能申偽、古着品々為持出候、於途中吉兵衛儀怪敷存候様子を察、却而同人江不審相掛候趣申掛、細引を以吉兵衛小手

を括、右古着類奪取、剩手拭を以同人咽喉をメ掛、右之次第訴出候所存ニ候ハ、可殺旨申威追払、其上無宿金五郎申合、久左衛門町平次郎方江罷越、藤右衛門町儀兵衛注文之由申偽、反物類取寄、同人店方借請、直組応対中邪弁を以右反物持出銜取、猶又此者老人立、天満老松町栄助・同所又次郎町忠兵衛方江も前同様役筋手先之風躰ニ取繕罷越、栄助方ニ而江可差出旨申偽銜取、忠兵衛方ニ而者組同心使之由申偽、木綿類可銜取所存之処、同人夜行相断、手段齟齬いたし候場合ニ寄、先方江断ニ罷越候様申聞、

右方下人勇次郎与同道いたし候途中ニ而同人携居候提灯押借いたし追返候始末、不届之科、翌戌年正月廿五日行之

(五〇一〇五)

布袋町  
源太郎代判平右衛門借家

嘉永二酉年十一月廿九日入牢  
一獄門

次兵衛同居梓

吉太郎  
戌式拾三歳

(五〇一〇六)

同日入牢  
大坂三郷町中引廻之上

無宿

大和町の  
弥三郎

戌式拾三歳

此者共儀、吉太郎者先達而盜又者不届有之、入墨之上重敲、猶重敲等申付候身分不慎、同人儀無宿福松、行衛不知同菊松申合、所々ニ而往来人を取巻、手ニ提、又者肩ニ掛居候錢品奪取候上、此者共并右福松、菊松等追々手合を替申合、銘々出刃庖丁脇差等を抜

持、福松頭取、京町堀壱丁目・南久太郎町弐丁目・  
南置屋町・備後町五丁目・北堀江壱丁目・道修町三  
丁目・升屋町・安堂町弐丁目・下半新天満町人家江  
押入候節々、金銀可差出、声立候ハ、可突殺旨、家  
内之者を申威致盜、殊ニ北堀江壱丁目ニ而表口ニ而盜

賊之由声立候ハ、追々近辺之者共出会、棒木切杯を

携立向候を、福松儀心憎存候逆、右会出候者三人江

疵為負、剩此者共儀、福松手合ニ而往来之者を捕、

着用之衣類無躰ニ剥取、猶懷中之錢をも奪取候始末、

強盜之至、殊弥三郎者數度之儀、別而不届至極之科、

翌戌年二月廿一日行之

(五〇一〇七)

無宿

嘉永二酉年十二月十三日入牢  
一獄門

池田の  
由

松  
戊戌拾六歳

嘉永二酉年十二月四日入牢  
一死罪

無宿

三芳野の  
清五郎

戊戌拾三歳

此者儀、阿州知人方江可罷越与船宿北堀江五丁目新  
兵衛方ニ而、同国江之便船相頼、當表出帆いたし、

揖州兵庫津ニ而滞船罷在候節、船頭手元ニ有之同國  
江之届金六拾両盜取、酒食及遊興、其上泊茶屋安治  
川上壱丁目徳次郎方江遊ニ參候節、酒食相誂、酒相  
手ニ相成候同人抱飯燒女たま与致密通、盜金之内遺  
果候ハ致後悔、同人江相対死之儀申勸候始末、不届  
之科、翌戌年三月廿八日行之

(五〇一〇九)

嘉永二酉年十二月二日入牢

大坂三郷町中引廻之上  
一獄門

無宿

池之原の

熊吉

戌式拾三歳

(五〇一一〇)

同年十月十一日入牢

大坂三郷町中引廻之上  
一獄門

同

黒井の  
太蔵

戌式拾八歳

此者共儀、熊吉者先達而致盜、敵申付候後、於堺入

墨之上重敵相成候身分不慎、此者共申合、所々人家

土蔵之戸前焼切、又者表之戸固辞明這入、致盜、其

上太蔵壱人立、三ヶ年以前、泉州宇多大津村人家納

屋之戸焼切候折節、風烈敷燃上、終右納屋并同続建

家共致焼失、其節者不得物取逃去、然而已ならず、

此者共申合、同州逆瀬川村・池田下村・和州萩之本

村人家ニ而者、銘々脇差を帶押入、立替頭取、右脇

差抜持、金銀可差出、声立候ハ、可殺旨申威、辺ニ

有合候荒縄を以家内之者共括置、金銀品等盜取、剰

河州上田村ニ而者此者共を捕押掛候付、心憎存候逆、

非人番三人江手疵為負、太蔵も疵請候鑑逃去候後、

熊吉儀行衛不知無宿力藏申合、河州草尾新田・狹山

新宿・古市村・八尾木村・半田村人家江押入候節々、

熊吉頭取、前同様申威、家内之ものを括置、金銀品

盜取候段、強盜之至、殊數度之儀、別而不届之科、

翌戊戌年四月六日行之

(五〇一一一)

嘉永三戊年四月三日入牢

下手人申付、死骸取捨

一弔申間敷貰、一件所之者江

船坂町  
佐兵衛下人

忠七

戌式拾五歳

此者儀、奉公中之身分ニ而傾城町江相通、佐渡鳴町

倉蔵抱傾城小弁与馴染居候処、同人儀此者を慕ひ候

愛情ニ迷、相対死申合、小弁を刺殺、自害仕損候始

末、不届之科、同月九日行之

## (五〇一一二)

無宿

嘉永二酉年十二月十六日入牢

一死罪

太山寺の  
弥三郎

戌式拾六歳

此者儀、先達而致盜、入墨之上重敲申付候身分不慎、

行衛不知無宿万次郎・同竹次郎等手合を替申合、兩

人儀所々人家裏口戸焼切這入、此者者家外往来人

を見張龍在致盜、其余右之者共盜取候品、數多壳払

之儀頼請、欲心ニ迷引請壳払遣、世話料貰請候始末、

不届之科、翌戊年五月九日行之

## (五〇一一三)

當時無宿

林 蔴

戌式拾三歳

同日入牢

一死罪

此者儀、先達而於京都盜又者致帶刀、南都菩提院堂舍再建与偽、所々ニ而金銀錢乞取候依科、入墨之上輕追放相成候身分不慎、追々不詰成行候逆、無宿村

此者共儀、先達而致盜、入墨之上重敲申付候身分不慎、此者共并死亡無宿吉蔵・行衛不知同藤吉申合、人家裏手切戸固辞明這入、吉蔵・藤吉者、鎌を以土

## (五〇一一四)

無宿

嘉永二酉年十二月十日入牢

一死罪

河内の  
芳 三郎

戌式拾六歳

## (五〇一一五)

同

漁師の

龟 吉

戌式拾八歳

此者共儀、先達而致盜、入墨之上重敲申付候身分不慎、此者共并死亡無宿吉蔵・行衛不知同藤吉申合、人家裏手切戸固辞明這入、吉蔵・藤吉者、鎌を以土

田光□今京都梅園家繪符并同家祈禱所之由、同所福寿院堂舎修復之勸化帳等贋物与乍心付讓請、脇差を帶、井上林与名乗在々立廻、右勸化与偽錢乞取、其上所々ニ而同様申偽、一宿を乞致止宿、家内寢鎮候時分を考、辺有之品盜取候段、不届之科、翌戊年五月廿三日行之

藏之戸錠前を明内江入致盜、此者共右品追々荷拵い  
たし取出、壳拵代金錢分取、遣捨候始末、不届之科、  
翌戌年五月廿三日行之

(五〇一一六)

嘉永二酉年十一月廿日入牢  
一死罪

当時無宿  
糸屋の

久  
歲  
戊三拾三歳

此者儀、先達而盜又者不届有之、入墨之上重敲、其

後兩度重敲等申付候身分不慎、無宿桩之助申合、同

人者所々人家土蔵之屋根切破忍入、此者者往来人を

見張罷在盜いたし、右盜取候品并桩之助一分三盜取

候分も、坂田町利兵衛外式人江壳捌、此者者和州路

江立退居候處、桩之助儀利兵衛方江金錢押借ニ罷越、

致難儀候趣ニ而、利兵衛・聚楽町清助儀、桩之助連來、

彼地ニ留置、世話いたし吳候様頼請候得共、差支候

付及断候上、一同酒給候砌、利兵衛江對又々無心申

募、取看候得共不聞入、剩出刃庖丁取出、此者を切

ニ掛候付、不法之仕方心憎存、庖丁挽取所々江傷付  
候処、相果候及仕儀、右死骸二者入墨有之、盜賊同  
士打之疑を可遁ため、入墨有之右腕を切落埋、又者  
死骸を隠置候始末、旁不届之科、翌戌年八月五日行  
之

(五〇一一七)

嘉永二酉年十二月廿一日入牢  
一獄門

半宿  
菊門

成武拾八歳

此者儀、先達而致盜、入墨之上重敲申付候身分不慎、

當時無宿平兵衛方ニ而病氣養生世話いたし貰、快氣

ニ隨、生國江可立帰与路用手當等之儀、同人江申談

候節、同人儀無跡形儀を申聞、此者江惡事相勸候様

子ニ候逆、猶又西濱町人家ニ階雨戸窓裏手様先雨戸

等固辞明這入、度々致盜、壳ケ度者家内之者起合相

咎候逆、金銀可差出、声立候ハ、可殺旨申威、今壳

ケ度者不得物取逃去候共、右始末強盜之仕方、不届

之科、翌戌年八月五日行之

(五〇一一九)

無宿 延岡の

嘉永三戌年六月五日入牢  
一死罪

金助 戌三拾六歳

嘉永三年四月廿七日入牢  
一死罪

當時無宿

平兵衛 戊三拾六歳

此者儀、先達而於江戸盜又者不届有之、入墨之上重  
敵、入墨を消紛候付、如元入墨之上江戸払、其後於  
当表不届有之、重敵相成候身分不慎、盜賊菊次病氣  
養生之世話いたし遣、快氣ニ隨生國江立帰度、路用

手當等之儀申談請候節、同人盜為相勦分口可取手段  
之ため、此者役筋合用向承候身分ニ付、其筋江風聞

立候儀者必漏聞候間、向後菊次盜惡事いたし相顯候  
共、可遁勘弁可有之杯無跡形儀を申聞、賊心萌候様

申成候ル、同人儀人家江忍入盜相勦、其段申明、持

帰候金品之内衣類貲請候上、急入用有之候逆、右金  
子拾四両無心申聞借請遣捨候始末、不届之科、同年

八月五日行之

(五〇一二〇)

無宿 塩からの

新威 戌三拾六歳

小田原の  
糸吉 戊三拾六歳

嘉永二酉年十一月廿二日入牢  
一死罪

(五〇一二一)

同年十二月十八日入牢  
一死罪

此者共儀、新藏者先達而致盜、敵可申付処、無宿幼

年之儀ニ付非人手下、猶又致盜、前科押包、敲又者盜いたし、再応前科押包、敲入墨等申付候後、追々不届有之、兩度重敲可申付処、非人手下之儀ニ付、度毎当表四ヶ所長吏共江引渡、夫々相当之仕置可申付旨申渡候身分不慎、行衛不知無宿清吉・同常吉・

同異名長玉申合、往来人脊負居候木綿袋又者懷中之

紙入、腰提田葉粉入内ニ金銀錢入有之候儘、度々盜

取、其後被捕候節、右盜口押包、外不届之筋及白状、

入墨入直、重敲之上重追放、最前入墨之際江猶又入

墨之上重追放可申付処、非人手下之儀ニ付、度毎入

墨之上、前同様長吏共江引渡、夫々相當之仕置可申

付旨申渡候身分不慎、御構場江立入、叅吉者先達而

於江戸盜又者不届有之、重敲入墨、如元入墨之上江

戸拵相成候身分不慎、当表江立越、摶州北平野町六

丁目儀三郎同居久藏江身分之世話相頼、寢泊をも為

致貰候内、行衛不知無宿繁吉申合、往来人懷中紙入、

腰提田葉粉入内ニ金錢入有之候儘、度々盜取、其後

新藏も叅吉手筋を以、御構場久藏方ニ而是又世話相

### (五〇一二二)

嘉永三戌年三月晦日入牢

一下手人

無宿  
播州の  
佐 吉

戊四拾歲

此者儀、行衛不知無宿異名伊丹・同網干申合、御法度を背、輕賭賽博奕相催居候折柄、無宿光藏罷越、金錢無心申掛及断候を不聞入、強情申募博奕勝負之邪魔ニ相成候逆腹立いたし、可打殺旨伊丹發意ニ此者同意いたし、伊丹初発ニ打掛候与之儀、同人行衛不相知上者片口之儀難取用、既ニ銘々木切を以光藏を打擲いたし為疵負為致即死候段、不法之至、不届之科、同年八月十一日行之

(五〇一二三)

嘉永三戌年六月十四日入牢  
一死罪

七郎右衛門武丁目  
平次郎支配借家  
五郎兵衛同居  
粹政次郎  
戊式拾九歳

此者儀、相生橋之上ニ迷子有之、抱揚名前相尋候得  
共、泣立候而已ニ而何之答も不致候逆、酒狂之余氣  
障ニ存、可殺存念ニ無之候共、川中江投込候処、水  
死いたし候由風聞ニ怖、致家出所々ニ身を隠罷在候  
段、不届之科、同年八月十一日行之

(五〇一二四)

設染八三郎御代官所  
撰州西成郡木津村

東之丁

与兵衛借家

嘉永三戌年八月二日入牢  
一獄門

八  
戊六十五歳

此者儀、住所不知佐兵衛台御用印提灯預置、不詰ニ

相成給続兼候逆、金錢取引手広ニ相聞候人家名前を  
承置、右提灯を燈し脇差を帶、役筋手先之躰ニ取繕、  
当表井京地所々人家江罷越、吟味筋有之外町会所ニ  
役人出張有之候間、右場所江參候様申欺、為立出候  
留守中江踏込、家内之者江惡金銀改ニ付、有合候分  
可差出旨申聞、金銀錢銭取、道修町三丁目会所ニ而  
者同町之者呼寄、申聞候処、怪敷存丁代治助差押ニ  
掛候節、右提灯投付逃去候後、右同様之提灯取捨、  
猶又所々人家井町会所・庄屋宅等江參、前同様之手  
段を以致衙事、又者枊座改方与偽枊改いたし、不正  
之趣申掛、含金・酒代<sup>手号</sup>金錢貪取、或者枊取上持帰、  
撰州北平野町外武ヶ所ニ而者右手段致齟齬、不得物  
取候共、右始末大胆之至、不届至極之科、同年八月  
十一日行之

(五〇一二五)

嘉永二酉年五月七日入牢  
大坂三郷町中引廻之上

無宿  
下総の

一死罪

豈  
吉  
戌三拾三歲

戌拾八歲

此者儀、先達而致盜、於江戸町中引廻之上死罪可相成処、在牢中出火之節、牢屋江火移候付、切放相成候節、申渡を相守立帰候付、宥免之上、入墨之上重敲、人足寄場江差遣候處、同所病人仮部屋掃除口押明、裏手木戸門錠を固辞明逃去、當表江立入、無宿金五郎・行衛不知同惣吉等、追々手合を替申合、又者此者壱人立、所々人家表裏雨戸等明掛有之内江入、又者表之戸并辻合木戸其外等々伝上候而も二階出口雨戸物干入口之戸等固辞明、或者右二階出口裏口錠前を焼切這入、金銀錢品盜取、猶店先ニ有之錢品をも盜取候段、數度之儀別而不届之科、翌戌年八月十六日行之

(五〇一二六)

嘉永三戌年四月十九日入牢  
一獄門

無宿  
やまととの  
長  
蔵

(五〇一二七)

嘉永三戌年八月二日入牢  
大坂三郷町中引廻之上  
一獄門

無宿  
西宮の  
熊  
吉  
戌武拾三歲

(五〇一二八)

同日入牢

大坂三郷町中引廻之上

一死罪

(五〇一二九)

同日入牢  
一死罪

右同様這入候処、家内之者起合、盜賊之由声立、人寄いたし候様子を身請、兩度者不得物取候共、熊吉。

寅吉者數度之儀、右始末別而不届至極之科、同年十二月十九日行之

同

ひせん  
寅 吉

戌武拾六歳

同

大坂の

芳 松  
戌武拾四歳

無宿

八百屋の

忠 七  
戌武拾六歳

(五〇二三〇)

嘉永三戊年九月十六日入牢  
一獄門

百杖敲入墨之上領分払相成候後、右入墨を消、不届有之、入墨重敲之上重追放、其後最前入墨之際江猶又入墨之上、重追放申付候身分不慎、御構場江立入、所々人家表之戸固辞明這入盜いたし、炭屋町人家ニ而者家内之者起合候逆、懐剣抜持、金銀可差出、猶豫いたし候ハ、可殺旨申威候処、不恐此者を差押ニ掛候付、心憎存右懐剣を以右之者共江手疵為負、金銀品盜取候始末、強盜之至、不届至極之科、同年

此者共儀、芳松者先達而盜いたし、敲可申付處、御祝儀之御赦ニ出牢申付候身分不慎、熊吉者壱人立、人家表格子下壁切破、或者表之戸等打破忍入、盜いたし候而已ならず、行衛不知無宿異名のつほり・同京勘申合、又者熊吉壱人立、谷町三丁目外町々人家表之戸木切を以打破這入、家内之者起合相咎候逆、熊吉儀脇差抜持、金銀可差出、声立候ハ、可殺旨申威盜いたし、寅吉・芳松申合、前同様熊吉這入、脇差抜持、家内之者申威候節、兩人共度每表口ニ而往来人を見張盗みいたし、北濱壱丁目外壱ヶ所ニ而ハ

十二月廿九日行之

嘉永二酉年六月六日入牢  
一獄門

力歲事

清 藏

戌三拾貳歲

(五〇一三一)

元中野石見守掛

道頓堀湊町

虎之助代判藤兵衛

借家

喜兵衛

戊式拾五歲

嘉永二酉年六月朔日入牢  
一死罪  
此者儀、先達而致盜、敵申付候身分不慎、所々人家  
裏口之掛鉄を竹ニ而外し、裏手板扉之破々手を入、  
戸メ之栓を抜、或者裏口之戸押明這入、又者裏手雪  
隠下る潜入盜いたし、然而已ならず、裏口之戸椽先  
之障子等明掛有之内江入候而茂盜いたし候段、不届  
之科、翌戌年正月廿一日行之

(五〇一三二)

嘉永三戌年正月十日入牢  
一獄門  
無宿  
大坂の  
菊 松  
戌式拾六歲

此者儀、市中橋之上又者大道ニ而往来人を捕、着用  
之衣類可脱渡、無左候ハ、致方有之由申威、衣類剥  
取候而已ならず、所々人家江罷越出刃庖丁取持、金  
銀貸渡候様手強ニ申聞候ニ、家内之者恐怖いたし、

(五〇一三三)

松平主殿頭領分

豊前宇佐郡長洲浦

金社丸直乗船頭

奥之間江逃入候跡ニ而手元ニ有之錢盜取候段、久左  
衛門町ニ而者不得物取候与も、右始末不届至極之科、  
同年二月十六日行之

(五〇一三四)

嘉永二酉年九月十日入牢  
大坂三郷町中引廻之上  
一獄門

無宿  
天満  
政吉  
戌式拾弐歳

(五〇一三五)

同月十一日入牢  
大坂三郷町中引廻之上

同  
由松事  
木代松  
戌拾九歳

(五〇一三六)

同月廿日入牢  
大坂三郷町中引廻之上

かたろの  
治助  
戌式拾弐歳

木代松者播州於姫路領分、追払相成候身分不慎、無  
宿酒屋の光蔵・當時無宿鑑吉并行衛不知無宿京の卯  
之助・同九條の平吉・同権八・同市蔵・同ひからの  
丑松・同異名政等、追々手合を替申合、所々人家表  
裏之戸固辞明、又者普請場板闈等固辞外し遁入、或  
者表之戸打割押入、剩天満砂原屋敷外六ヶ所ニ而者  
家内之者起合相咎候辺、政吉・光蔵・木代松・次助  
等立替頭取、帶居候脇差抜持、又者持居候鑒木切等  
振上、声立候ハ、可殺旨申威盜いたし、然而已なら  
ず、政吉・木代松・治助者老人立候而も、所々人家  
表之戸二階之戸固辞明這人、或者裏口之戸明掛有之  
内江入致盜、又者店先ニ差置有之金錢品をも盜取候  
段、強盜之至、殊ニ數度之儀、別而不届至極之科、  
翌戊午年二月廿一日行之

(五〇一三七)

嘉永二酉年十月五日入牢  
大坂三郷町中引廻之上

無宿非人  
大坂の

此者共儀、政吉・木代松者先達而致盜、政吉者敲、

一獄門

松之助  
戊武拾弐歳

(五〇一三八)

同日

大坂三郷町中引廻之上

同

難波の

弥三郎  
戌武拾弐歳

此者共儀、松之助者行衛不知無宿熊吉申合、又者壹人立、所々人家表裏之戸固辭明這入、錢盜取、其後被捕候得共、右盜口押包、外盜口而已及白状、入墨之上重敲可申付処、非人之儀三付、入墨之上、当表四ヶ所長吏共江引渡、重敲相当之仕置請、弥三郎者先達而致盜、入墨之上重敲申付候身分、兩人共不慎、此者共并前書熊吉等申合、所々人家表之戸格子等固辞明這入、或者石を以表之戸打割押入、錢品盜取候而已ならず、松之助者壹人立候而も表之戸固辭明這入、又者表之戸明掛有之内江入候而も致盜、其後猶又兩人共被捕候得共、右盜口押包、外惡事而已及白状、弥三郎者重敲之上重追放、松之助も同様可

大坂町奉行所の刑事判例(一)

(五〇一四〇)

一獄門

嘉永三戌年二月十五日入牢  
大坂三郷町中引廻之上  
井田主税与申立候  
當時無宿  
主 税  
戌武拾三歳

(五〇一三九)

申付処、非人手下之儀三付、当表四ヶ所長吏共江引渡、右相當之仕置請候身分不慎、弥三郎者御構場、松之助者構場所江立入、猶又此者共并行衛不知無宿

菅割の岩吉・同異名化の岩等、追々手合を替申合、所々人家表之戸固辭明、又者表之壁切破這入、或者表之戸石を以打割押入、剰南塗師屋町外三ヶ所ニ所者家内之者起合相咎候逆、松之助・弥三郎代り合頭取、銘々帶居候脇差抜持、声立候ハ、可殺旨申威、致盜候段、強盜之至、然而已ならず、山本町外戌ヶ所ニ而者往来人を捕、木切抜刃等を持前同様申威衣類剥取、又者金錢奪取候始末、不届至極之科、翌戌年二月廿三日行之

同日入牢

大坂三郷町中引廻之上

美津野清蔵与申立候  
同

清 蔵

戌武拾五歳

此者共儀、無宿之身分ニ而苗字を名乗帶刀いたし、  
往来大道ニ而町人牴之者与及口論取掛候節、右之者

懷中ヲ落候錢品奪取逃去候後、追々惡心增長いた

し、此者共申合、又者清蔵、壱人立、所々往来大道橋  
詰等ニ而往来人を引捕帶居候刀を抜、金銀可差出、  
無左候ハ、可切殺旨申威、金銀錢品奪取、或者恐怖

いたし金銀不持合もの共脱渡候衣類剥取、右之外ニ  
も度々同様可奪取与往来人を引捕、理不尽ニ懷中江  
手を入搜索、壱ヶ度者持居候提灯奪取川中江投込、  
拔刃振廻候切先余、右之者江乍聊疵付、然而已なら

ず、往来人持居候傘抜打いたし、又者往来之女を引  
捕、戯ニ懷中江手を入候ニ驚右之者声立候逆、刀を

以棟打いたし右拔刃を持歩行候付、泊茶屋渡世之人

家表口ニ居合候女共相恐内江逃入候ニ付込、右人家

江立入刀抜彼是難題申掛、右牴横行之及振舞候故、

## (五〇一四一)

無宿

嘉永三戊正月廿一日入牢

大坂の  
一獄門

辰

藏

戌武拾三歳

## (五〇一四二)

同

同日入牢

下総の  
次

兵衛

戌武拾三歳

## (五〇一四三)

同

筑前の  
篤次

郎

戌武拾五歳

此者共儀、死亡無宿片町の弥助追々申合、所々大道

町人共夜行を危踏候取沙汰等いたし候仕儀ニ至、剥  
於途中捕押ニ掛候天満長史下安治郎外三人与刀を抜  
打合候紛、安治郎疵請、終ニ同人右疵ニ而及死失候  
次第三至候始末、不届至極之科、同月廿五日行之

橋詰等ニ而往来人を捕、着類可脱渡、無左候ハ、可殺旨、式ヶ度者出刃庖丁を持申威、又者右之者江取掛、往来人着用之衣類剥取、或者持居候錢品奪取、然而已ならず、辰蔵・次兵衛者、行衛不知無宿天満の平助申合、人家店先ニ差置有之品をも盗取候段、次兵衛儀式ヶ度者申合候迄ニ而道々後□剥取候節、不携候共、一同不届至極之科、同年三月四日行之

(五〇一四四)

嘉永二酉年十月二日入牢

無宿

木周の

卯

之助

戊武拾三歳

一獄門

(五〇一四五)

同日入牢

大坂三郷町中引廻之上

同

網干の

源

蔵

戊武拾三歳

一獄門

(五〇一四五)

此者共儀、卯之助者先達而盜いたし、於紀州城下今七里之外江追放、兩腕江入墨之上、右領分追放等相

嘉永三年戌二月二日入牢

無宿  
堺の

成候後、右入墨を焼消、当表江立入致盜被捕候節、前科生年押包、入墨之上重敲、源藏者先達而盜又者不届有之、入墨之上重敲、兩度重敲等申付候身分不慎、此者共并死亡無宿繁藏外壱人申合、式ヶ度者行衛不知無宿鶴吉等申合、同人者近辺ニ為待置、所々人家表横手之壁切破、或者表之戸揚店之下等を固辞明、或者格子下之板を外し這入、右之内三ヶ度者此者立替頭取、脇差抜持押入、金銀可差出、声立候ハ、可切殺旨家内之者を申威、又者致恐怖家内之者裏口江逃出候跡ニ而致盜、而已ならず、同様申合、人家軒下床机之上ニ臥居候町人牀之者を引起、銘々脇差抜持、着用之品可相渡、無左候ハ、可切殺旨申威、右之者着いたし候衣類剥取候始末、數度之儀別而不届至極之科、翌戊年三月七日行之

(五〇一四六)

一獄門

辰歲 戊拾九歲

此者儀、先達而致盜、於堺敵相成候身分不慎、行衛不知無宿異名坊主熊・同清吉等、追々手合を替申合、拔刃を持、人家表之戸メ寄有之明這入候折節、家内之者見咎、却而棒を以捕押ニ掛候付、怖敷存不得物取逃去、其後猶又安土町壱丁目人家江も罷越、坊主

熊者表口ニ往来人を心付罷在、此者儀右人家表之戸固辞明這入候折柄、家内之者起合候逆、持居候出刃庖丁振上、声立候ハ、可殺旨申威、錢品盜取候而已

ならず、表之戸明掛有之内江入候而も盗いたし候段、

強盜之至、縱令壱ヶ度者未得物取候共、右始末不届之科、同年三月十一日行之

(五〇一四七)

無宿

堺の

友

吉

戌拾九歲

嘉永三戌年正月十日入牢

一死罪

(五〇一四八)

嘉永三戌年三月十一日入牢

大坂三郷町中引廻之上

一獄門

無宿 境屋の

福 戀

戌三拾貳歲

(五〇一四九)

同日入牢

大坂三郷町中引廻之上

一獄門

同

うを龟事

亀 吉

戌三拾四歲

此者共儀、兩人申合、又者福戸者行衛不知無宿赤飯の元吉・同富松・同新助等、追々申合、或者福戸者人立、所々人家表窓之子(俗子)を外し、表裏之戸土蔵之

戸等固辞明候而已ならず、土蔵之錠前を焼切道入、三ヶ所ニ而者此者共代り合頭取、銘々帶居候脇差を抜持、金銀可差出、声立候ハ、可殺旨家内之者を申威致盜、剩農人橋式丁目ニ而者盜賊之由申聞、福蔵

持居候脇差之鞆を取ニ掛候逆、心憎存無理ニ振放候機ミ、右之者江乍聊疵付盜いたし候始末、強盜之至、殊數度之儀、其後福蔵者被捕吟味請候節、外惡事而已及白状、右盜口押包罷在候段、別而不届至極之科、同年四月三日行之

(五〇一五〇)

嘉永三戌年正月八日入

一死罪

無宿  
肥前坊の

房  
吉  
戌拾八歳

嘉永三戌年正月八日入

(五〇一五〇)

此者儀、先達而致盜、敲入墨之上重敲□□、所々無

縁之家江罷越、押而無心申聞金錢品乞取候付、重

敲之上重追放申付候身分不慎、御構場江立入候而已

ならず、行衛不知無宿江忠の竹蔵申合、人家表之戸

(五〇一五一)

嘉永三戌年三月七日入牢

一死罪

無宿  
笠山の  
岩次郎  
戌拾五歳

此者儀、先達而盜又者不届有之、入墨之上重敲、猶又重敲等申付候身分不慎、行衛不知無宿異名京龟申合、所々人家裏口竿ニ掛干有之、又者表口ニ差置有之品盗取候而已ならず、表之戸明掛有之内江入候而も致盜候段、不届之科、同年四月七日行之

(五〇一五二)

嘉永三戌年三月十日入牢

一死罪

無宿  
斐結の  
徳松  
戌拾三歳

此者儀、先達而盜可致念慮ニ而人家江這入、可盗取

之板釘メ弛ミ有之処ヲ手を入、板を押外し這人致盜候段、不届之科、同年四月三日行之

品無之立出候折柄、家内之者見咎捕押ニ掛候逆、疵付逃去候付、入墨之上重敲申付候身分不慎、所々人家納屋之戸、又者表裏之戸明掛有之内江入盜いたし候段、不届之科、同年五月四日行之

(五〇一五三)

嘉永二戊年三月十八日入牢

大坂三郷町中引廻之上  
一獄門

無宿

かゝの

卯之助

戌武拾歳

(五〇一五四)

同月廿六日入牢  
大坂三郷町中引廻之上

同 泡治事

あかしの

吉兵衛

戌武拾五歳

(五〇一五五)

同日入牢  
一死罪

同 さぬきの  
弥助  
戌武拾八歳

此者共儀、弥助者死亡無宿弥三郎・同大坂の松之助并行衛不知無宿熊吉申合、弥三郎・松之助・熊吉儀、人家表之戸石を以打割這人致盜候節、弥助者表口ニ而往来人を心付罷在、又者弥助儀、死亡無宿すしやのとら吉申合、同人之肩ニ乗脊繼ニいたし、所々人家屋根江搔上、二階窓之透る手を入れ致盜、卯之助・吉兵衛者、先達而盜又者不届有之、卯之助者入墨之上重敲、敵之上輕追放、中追放、吉兵衛者入墨之上重敲、猶又重敲等申付候身分不慎、卯之助者御構場江立入、吉兵衛・弥助追々手合を替申合、或者老人立、人家格子之透る手を入、又者所々人家表之戸固辞明這入、或者裏口之戸明掛有之内江入盜いたし候ならず、三ヶ所ニ而者卯之助頭取、銘々帶居候脇差抜持、或者出刃庖丁振上金錢可差出、声立候ハ、可突殺旨家内之者を申威盜いたし、剩讚岐屋町ニ而者錢品盜取候上、古裂手拭を以右之ものを括置逃去候始末、卯之助・吉兵衛・弥助者強盜之至、殊卯之助・吉兵衛者數度之儀、別而不届至極之科、同年五月十三日

行之

(五〇一五六)

嘉永三年正月廿八日入牢  
大坂三郷引廻之上

一死罪

無宿  
西宮の  
丑 松  
戌武拾弐歳

此者儀、先達而盜又者不届有之、入墨之上重敲、中追放、重敲之上重追放等申付候身分不慎、御構場江立人、行衛不知無宿喜助・同葭蔵等申合、又者老人立、所々寺院庫裏之戸又者人家裏口之戸建寄有之を明、或者寺院土蔵本堂椽先茶所入口之戸固辞明這入致盜候段、數度之儀、別而不届之科、同年五月十三日行之

(五〇一五八)

嘉永二四年八月廿九日入牢  
大坂三郷町中引廻之上

一獄門

無宿  
いこらの  
貞 蔵

戌武拾四歳

(五〇一五九)

同月廿一日入牢  
大坂三郷町中引廻之上

一獄門

同  
黒須の

清 吉  
戌武拾武歳

(五〇一六〇)

嘉永三年二月十六日入牢  
一死罪

無宿  
若江の  
喜 助  
戌武拾三歳

(五〇一五七)

此者儀、先達而致盜、入墨敲申付候身分不慎、行衛不知無宿伊之助申合、人家裏手壁切破這入盜いたし候而已ならず、右伊之助并行衛不知無宿巳之助申合、

右之者共者人家表堺江搔上裏手江下メを明、又者所々人家裏口之戸土蔵之戸固辞明這入盜いたし候節々、

此者表口ニ而往来人を心付罷在候段、不届之科、同年六月七日行之

同年十一月六日入牢

一死罪

江州の  
寅 吉  
戌三拾武歳

(五〇一六一)

同

山戸の

安 吉  
戌武拾八歳

同年九月三日入牢  
一死罪

此者共儀、先達而致盜、貞藏・寅吉者敲申付、清吉  
も同様可申付廻、生年押包、幼年ニ申立、無宿幼年  
之儀ニ付非人手下、安吉者入墨之上重敵等申付候身  
分不慎、貞藏・清吉者行衛不知無宿田坊主の菊松・  
同亡者の寅吉・同大坂の松之助・同異名とか奴・同  
大坂の藤助・同目草の熊吉・同紋付の亀吉・同大坂  
の政吉・同友吉・同穢多福松・同志州の辰蔵・同才  
助・同異名ちつは吉・死亡無宿坊主の熊吉・同松吉、  
追々手合を替申合、所々人家表之戸固辞明這入、家  
内之者起合相咎候節者、貞藏并右熊吉頭取、銘々帶  
居候脇差抜持、木切盤等を振廻、家内之者を申威盜  
金銀錢品盗取、其上貞藏儀、右龟吉并異名ひよつと

いたし、壱ヶ所ニ而者貞藏儀、家内之者捕押候を心  
憎存候辺、抜刃を以右之者并駁付候隣家之者江疵付、  
不得物取逃去、清吉も壱ヶ所ニ而者脇差抜持押入、  
金銀可差出旨申聞候節、家内之者困窮ニ而貯之金銀  
無之旨相断候躰無相違見請、不得物取立去、然而已  
ならず、貞藏・清吉儀、行衛不知無宿京の徳松・同  
異名とか奴・同からつほの平吉・同熊吉等、追々手  
合を替申合、所々ニ而往来人を捕、或者申威、懷中  
并所持之金錢品又者往来医師躰之もの帶居候脇差奪  
取、右之内捕押ニ掛候者又者打掛候者等有之節者、  
脇差懷劍を抜振廻、壱ヶ度者不為負疵候共、其余者  
疵付、清吉者不得物取逃去、或者此者とも儀、無宿  
阿波の國蔵・同長太・松事松之助・同穢多坊主亀事  
亀吉・同京の竈吉并行衛不知無宿異名ひよつと江  
戸・同異名馬方亀・同京の徳松・同熊吉・同異名屋  
敷亀・同屋九松・同とかりの松吉等、追々手合を替  
申合、度々往来人脊負居候風呂敷包又者袋を切抜、

こ江戸申合、呉服物商内いたし候人家江罷越、買物いたし候躰ニ仕成、手元之品又者人家店先之品盜取候外ニも、貞藏・清吉者銘々壱人立、所々人群集之場所ニ而往来人懷中并腰之廻之金品盜取、清吉壱人立、往来人江金子貸呉候様申威、不承知ニ候ハ、存寄有之旨手強ニ申成、金子押借いたし、又者貞藏・清吉・安吉儀、右露吉等手合を替申合候而も、所々人家表之戸明掛有之内江入致盜、剩安吉者行衛不知屋九松申合、人家表之戸固辭明這入候而も盜いたし、貞藏・清吉・寅吉儀、右罪状之内ニ者度々被捕候以前いたし成候口も有之候得共、押包、外悪事而已及白状、貞藏者入墨敲可申付処、非人手下之儀ニ付、入墨之上当表四ヶ所長吏共江引渡、敲相当之仕置請、清吉者入墨可申付処、前同様幼年ニ申偽、幼年其上非人手下之儀ニ付、右長吏共江引渡、敲相当之仕置請候後、入墨、於高原溜三十日手鎖、重敲、入墨入直大坂三郷払、重敲之上重追放可申付処、非人手下之儀ニ付、入墨之上度毎長吏共江引渡、夫々相当之

仕置請、寅吉者前科包包、再度敲申付候身分不慎、清吉者構場江立入、右三人共其後も追々右躰惡事いたし候段、貞藏・清吉者數度之儀、寅吉者都合多分之金高盜取、殊貞藏者素性平人之身分ニ而穢多せつ与兼而及密通女房同然ニいたし罷在、剩一同吟味中入牢申付置候内、貞藏儀好之食物自由ニ給度、又者着類等思ひ之儘ニ取繕度存候逆、竊ニ牢番人安兵衛を頼、外ニ罷在候右せつ江内証通路いたし、食物小裂之類差入貲、合牢國藏・平吉江も分ケ与へ食用いたし、三人寄合話合候節、誰發言与なく右躰内証通路いたし、自由ニ差入人物出来候ハ、死刑難遁期ニ至、同様せつ江内証通路いたし、火打道具火口又者鋸之類取寄牢抜可致趣、右三人申合候始末、不忍公儀大胆之至、一同別而不届至極之科、翌戊年八月九日行之

(五〇一六二)

無宿

嘉永三戌年三月七日入牢

一死罪

下谷上村の

理助  
戌三拾八歳

新庄の

音吉  
戌拾七歳

同年四月十九日入牢

一死罪

此者儀、先達而致盜、入墨之上重敲申付候身分不慎、  
行衛不知無宿播州の嘉助申合、人家裏口之戸固辞明  
這入致盜候而已ならず、入墨有之候而者人交難相成  
存候逆、自身与艾を以右入墨を焼消掛候段、不届之  
科、同年十一月二日行之

(五〇一六三)

嘉永三戌年二月十六日入牢

無宿  
池田の

定吉  
戊武拾弐歳

一獄門

(五〇一六四)

同日入牢

大坂三郷町中引廻之上

西浦の  
藤吉

一死罪

(五〇一六五)

此者共儀、定吉者先達而松之助方ニ被雇中、雇主手  
元之錢品盜取候付、入墨敲可申付処、親類共々右錢  
并品者代錢を以相償、雇主松之助御仕置有免相願候  
付、大坂三郷ニ罷在間敷旨申渡候後、不届有之、右  
前科押包、於高原溜三十日手鎖、猶又致盜、右兩度  
之前科押包、敲、入墨之上重敲、藤吉も先達而致盜、  
入墨之上重敲申付候身分不慎、定吉・藤吉儀、行衛  
不知無宿土朱の助藏等追々手合を替申合、所々人家  
表裏之戸固辞明、土藏之錠前を焼切、又者藤吉儀、  
行衛不知無宿異名ゑと箇・同えと安申合、藤吉儀ゑ  
と箇を脊繼ニいたし、神社表門屋根江搔上内江入、  
寄進所入口之戸固辞明這入致盜候段、被捕吟味相成  
候節、兩人共右盜口者押包、外悪事而已及白状、藤  
吉者重敲、定吉者入墨之上重敲申付候後も前同様助  
藏申合、所々人家表掛鉄を外し、又者互ニ脊繼いた

し、所々人家表屋敷根板塀等江搔上内江入切戸を明、

(五〇一六六)

或者切戸之透ら手を入、貫ノ木を外し内江入、又者

定吉老人立、人家表之戸固辞明這入致盜候而已なら

す、往来之女を引捕、懷中改候ニ恐、頭ニ差居候品

并致着候衣類脱渡候を剝取、音吉も先達而盜、又者

不届有之、入墨之上重敲可申付処、致悪事候節者幼

年之儀ニ付入墨、其後重敲、猶又不届有之、右前科

押包、重敲申付候身分不慎、此者共追々申合、所々

人家江罷越候節々、藤吉・音吉者表口ニ往来人を心

付罷在、定吉儀右人家表之戸固辞明、又者裏口之壁

切破這入致盜、剩損伊丹綿屋町ニ而者家内之者起

合、盜賊之由申聞候逆、辺ニ有之出刃庖丁振上、声

立候ハ、可切殺旨、右之者を申威盜いたし、其上音

吉儀行衛不知無宿大坂の寅吉申合、往来之女頭ニ差

居候品、或者同人乞壳捌之儀相頼候品者盜物之由乍

承、世話料可貲請欲心ニ迷引請壳捌遣、為世話料錢

貲請候段、定吉・藤吉者強盜之至、殊數度之儀、不

届至極之科、同年十一月二日行之

(五〇一六七)

嘉永三戌年四月二日入牢

大坂三郷町中引廻之上  
一獄門

同日入牢

無宿

山登の

富藏

戊式拾老歲

河内の

由松事

徳松

戌拾八歲

無宿山戸の藤吉等追々手合を替申合、所々人家二階之戸・裏口之戸固辞明、又者表之戸押明遣入、剩天満砂原屋敷ニ而者家内之者起合候逆、富蔵頭取、帶居候脇差抜持、声立候ハ、可殺旨申威盜いたし、然而已ならず、大川町ニ而者徳松者表口ニ而往来人を心付罷在、富蔵者持居候弊を振廻、捕押ニ掛候家内之者江疵付不得物取逃去候事も、右始末強盜之至、殊數度之儀、別而不届至極之科、同年十一月廿六日行之

## (五〇一六八)

嘉永三戊年四月七日入牢  
大坂三郷町中引廻之上

兵庫津西柳原町  
三右衛門借屋

卯之助事

戊三拾貳歳  
儀 助

## (五〇一六八)

元中野石見守掛

加賀守掛

無宿

江州の

善次郎  
戌式拾三歳

嘉永三戊年三月十二日入牢

此者儀、先達而致盜、於堺入墨之上重敲相成候後、當表おみて不届有之、重敲申付候身分不慎、所々人

家表之戸明掛有之内江入、或者表口之壁切破手を入、戸メ之栓を抜明遣入、盗いたし候而已ならず、行衛不知無宿とみ藏々壳捌之儀相頼候品者盜物与乍承、知人之儀断も難申候逆、聞請壳私遣、酒食振舞請候始末、不届之科、同年十二月九日行之

## (五〇一六九)

嘉永三戊年四月七日入牢  
大坂三郷町中引廻之上

兵庫津西柳原町  
三右衛門借屋

卯之助事

戊三拾貳歳  
儀 助

此者儀、所々人家表裏之戸明掛有之内江入、又者表

之戸建寄掛鉄掛有之を押明引外し、或者表之戸固辞外し、壁突破メ之戸を明、梯子井刃之足掛有之所ら屋根江伝ひ上、二階雨戸を明、又者内江乗越、建寄有之椽先裏口等之戸を明、壁突破メを明、家内江入、多分之金銀錢品盜取候段、殊數度之儀、別而不

届之科、同年十二月十九日行之

(五〇一七〇)

嘉永三戌年三月十四日入牢  
一死罪

無宿

尾和利の

源次郎

戌拾九歳

此者儀、先達而致盜、敵可申付処、無宿幼年之儀ニ付非人手下、其後入墨申付候身分不慎、無宿堺の米吉・同いせの虎吉・同与兵衛・同異名きん時申合、人家表之戸明掛有之内江入、又者人家表格子之透ら手を入、盜いたし候段、不届之科、同年十二月十九日行之

(五〇一七一)

嘉永三戌年五月二日入牢  
大坂三郷町中引廻之上  
一獄門

無宿

坊主熊事

龍野の

弐助  
戌拾六歳

(五〇一七二)

嘉永三戌年三月十日入牢  
大坂三郷町中引廻之上  
一獄門

無宿

播州の

定吉

戌拾六歳

(五〇一七三)

嘉永三戌年四月廿八日入牢  
大坂三郷町中引廻之上  
一死罪

同

高津の

捨吉  
戌拾五歳

殺害および、右之者致所持候金子銀札奪取、其上右久吉井行衛不知無宿小藏・同待吉等追々手合を替申

合、所々人家江押入、此者頭取、拔刀井出刃庖丁等を持、声立候ハ、可切殺旨、家内之者を申威、或者此者壱人立、又者此者并無宿ゆひ奴の竹蔵・行衛不知無宿勇助等手合を替申合候而も、所々人家表之戸固辞明メを押明這入盜いたし、然而已ならず、往来人を捻伏懷中之金錢品奪取候段、數度之儀、不届至極之科、同年十二月廿九日行之

此者共儀、定吉者行衛不知無宿菊松・同清兵衛・同異名紀州等追々手合を替申合、所々人家表之戸固辞明這入盜いたし、剩長堀清兵衛町ニ而者家内之者起合候迎、定吉頭取、持居候出刃庖丁振上、声立候ハ、可殺旨申威、金品盗取、其後被捕候度毎、右盜口者押包、外悪事而已及白状、入墨之上重敲、入墨入直、大坂三郷松等可申付処、出生穢多与申立候付、入墨之上、度毎当表穢多村年寄江引渡、夫々相当之仕置可申付旨申渡候後、構場江立入、其上出生平人之身分押包、穢多与申偽候依科、非人手下申付候上、當表四ヶ所長吏共江引渡、摸河両国松相当之仕置可申付旨申渡候後も構場江立入候付、輕中追放、其後不届有之、重敲之上重追放等可申付処、非人手下之儀ニ付、度毎前同様四ヶ所長吏共江引渡、夫々相当之仕置可申付旨申渡、捨吉者先達而致盜、敲、入墨之上重敲等申付候身分ニ而行衛不知無宿坊主の新助、死亡無宿極之助等申合、又者壱人立、所々人家土蔵之窓鉄固辭外し、或者屋根切破、又者裏口之戸固辞

明這入盜いたし、其後被捕候得共、右盜口者押包、外悪事而已及白状、重敲之上重追放等申付候身分、兩人共不慎、捨吉者御構場、定吉者構場江立入候而已ならず、此者共井行衛不知無宿坊主の卯兵衛等手合を替申合、所々人家表裏口之戸固辞明這入盜いたし候段、兩人共數度之儀、殊定吉者強盜之至、別而不屆至極之科、同年十二月廿九日行之

合七拾三人

亥  
二月

柴田日向守  
本多加賀守

(中略)

柴田日向守  
本多加賀守

戊正月々同十二月中

一牢舍人數高武千百拾四人

午年入拾壱人

未年入式人

但申年入 捨老人

酉年入 三百式拾八人

戌年入 千七百六拾式人

遠嶋

最前入墨之際江猶又  
入墨之上追放

四人

捨老人

町中引廻獄門

町中引廻死罪

内

式拾式人

八人

拾四人

式拾七人

入墨入直之上追放  
入墨敵之上追放

壹人 壱人

壹人 壱人

刀脇差取上、入墨之上  
追放

壹人

入墨之上追放

五人

壹人

死罪可申付處、牢抜企之趣  
密訴いたし候付、長吏共江  
引渡、敵相當之仕置申付、  
先達而申渡請候構場江徘徊  
致間敷旨申渡

下手人申付、死骸取捨  
弔申間敷旨申渡

壹人

下手人

壹人

入墨入直、大坂三郷払  
入墨之上大坂三郷払

入墨敵申付、先達申渡  
有之通、大坂三郷罷在

問敷

壱人

入墨

脇差取上、入墨敵

壱人

買取致所持居候品  
取上、入墨敵

武人

入墨敵

百拾四人

敵之上追放可申付處、  
手下之儀二付、長吏共江引渡、  
相當之仕置可申付旨申渡

三人

拾壱人

入墨敵可申付処、女之  
儀二付、入墨之上穢多村  
年寄江引渡、相當之仕置

壱人

敵之上追放可申付處、  
穢多之儀二付、穢多村  
年寄江引渡、相當之  
仕置可申付旨申渡

壱人

入墨敵可申付処、穢多

之儀二付、入墨之上穢多村  
年寄江引渡、相當之仕置

壱人

追放

可申付旨申渡

三人

追放可申付處、非人手下  
之儀二付、長吏共江引渡、  
相當之仕置可申付旨申渡

九人

入墨敵可申付處、穢多女之  
儀二付、入墨之上穢多村年寄江  
引渡、相當之仕置可申付旨申渡

壱人

御切米召放

追放可申付處、穢多之儀ニ付  
穢多村年寄江引渡、相當之  
仕置可申付旨申渡

所持之脇差十手取上、  
敲之上摶河両国払

撰河両国弘

撰河兩國私可申付處、  
非人手下之儀三付、長吏共汗  
引渡、相當之仕置可申付旨  
申渡

河面国私可申付處、  
穢多之儀ニ付、穢多村  
年寄江引渡、相當之仕置  
可申付旨申渡

卷八

卷八

五  
人

武人

壹人

老人

大坂三郷を構、江戸払

居村を構、大坂三郷払

所を構、大坂三郷払

敲之上大坂三郷松

大坂三郷二罷在間數

西高津新地四丁目を構  
所払可申付処、古惡之儀二付  
御仕置之不及沙汰旨申渡

敲之上所払可申付処、  
無宿之儀二付、大坂三郷払

斐人

壹人

拾五人

敲之上所拏可申付処、幼少之儀二付、於高原溜手鎖可申付処、非人手下之儀二付、長吏共江

大坂町奉行所の刑事判例(一)

引渡、相当之仕置可申付旨申渡

敵可申付処、穢多之儀二付、  
穢多村年寄江引渡、相当  
之仕置可申付旨申渡

式拾四人

買取致所持居候品取上、  
所払

式人

所払

八人

所払可申付処、無宿之  
儀二付、大坂三郷払

式人

買取致所持居候品  
取上、敵

壱人

敵

式百八拾壱人

敵可申付処、非人手下之  
儀二付、長吏共江引渡、  
相当之仕置可申付旨申渡

三人

手鎖可申付処、數日入牢  
之儀二付、咎之不及沙汰

壱人

手鎖  
於高原溜手鎖

六人

敵可申付処、穢多女之儀二付、  
穢多村年寄江引渡、過怠牢  
相当之仕置可申付旨申渡

四人

敵可申付処、無宿幼年之  
儀二付、非人手下

壱人

過料

壱人

叱り

三人

過料可申付処、非人番之  
儀二付、長吏共江引渡、相當  
之咎可申付旨申渡

壱人

叱り置可申処、數日入牢之  
儀二付、咎之不及沙汰

壱人

過料可申付處、非人手下之  
儀二付、長吏共江引渡、手鎖  
相當之咎可申付旨申渡

武人

咎之不及沙汰  
江戸町奉行江引渡

四人

過料可申付處、無宿之  
儀二付、於高原溜手鎖可  
申付処、數日入牢之儀二付、  
咎之不及沙汰

壱人

御赦二付、出牢  
無構、出牢

三百武人  
五百八拾人  
五百六拾三人

品取上、叱り

壱人

下宿所預中、逃去  
下宿所預中、病死  
高原溜預中、病死

五人  
八拾八人

世話料取上、叱り置可申処、  
穢多之儀二付、穢多村年寄江  
引渡、相當之咎可申付旨申渡

壱人

重病二付、下宿所預二而  
去成年分當亥歲江越候者

百九拾人

下宿旅宿預二而去戌年分

三人

三月六日

高原溜預二而去戌年分

当亥年江越候者

八拾人

合千八百八拾壱人

残而武百三拾二人 是者亥年江越

(内表紙)

嘉永三戌年堺ニ而死罪之者科書

一

石谷因幡守

(五〇二一〇二)

無宿

樽屋の

寅

吉

嘉永二酉年十月七日入牢  
一町中引廻し獄門

(五〇二一〇二)

拾九歳

吉

於堺、去戌年死罪之者并牢舍之者  
之儀、堺奉行申聞候趣、申上候書付

土屋采女正

同日入牢

牛流の

榮

三拾八歳

藏

於堺、去戌年死罪之者科書壱冊、牢舍之者人數書付  
壱通、石谷因幡守差出候間、入御披見候、以上

此者儀、盜又者不届有之、堺并大坂奉行所おゐて、

寅吉者敲、入墨之上重敲、猶又重敲、栄藏者入墨之

上重敲、重敲之上重追放、其後遠鳴申付、天草嶋江

差遣置候処、御赦ニ遠嶋御免相成候身分、兩人共不

慎、栄藏老人立、船中又者泉州堺統湊村龟松方店先

ニ有之候脇差其外盜取、右脇差壳捌方寅吉受持、同

人者右次第を以被捕、御仕置相成候後、兩人并行衛

不知無宿異名大和与夫々申合、又者老人立、大坂長

堀清兵衛町利兵衛宅外四ヶ所表メリ戸鑑を以固辞明

ケ這入、寅吉者五ヶ度、栄藏者二ヶ度致盜、其上寅

吉儀出刃庖丁を以神明町濱七兵衛方表メリ戸固辞外

し押込候処、家内之者起合候付、目先江庖丁突付、

声立候得者可笑殺旨申威、金銀錢等盜取候科、同三

戌年正月廿二日行之

(五〇二一〇三)

嘉永二酉年九月十三日入牢

無宿

岩室

一町中引廻し死罪

牢死

（年齢不詳）

(五〇二一〇六)

(五〇二一〇四)

同

泉方の

由

松

同日入牢  
一死罪

武拾三歳

(五〇二一〇五)

戎農人町佐兵衛

弟

卯

兵衛

（年齢不詳）

一町中引廻し死罪  
牢死

卯

兵衛

此者共儀、由松者致盜候付、入墨之上重敲申付候身  
分不慎、行衛不知無宿さくまの熊吉・同異名兩替屋  
与も夫々申合、又者老人立、泉州見野山村仲右衛門  
外九ヶ所ニ而土蔵窓鉄物丸太を以固辞外し、又者居  
宅表メリ戸木切レを以固辞明ケ、夫々這入、衣類其  
外盜取候科、同三戌年二月十一日行之、丑松・卯兵  
衛儀も存命候ハ、町中引廻し死罪可申付者ニ候段、  
一件之もの江同日申渡

新地吾妻橋通式町目

嘉永二酉年十一月十八日入牢

庄助借屋

一死罪

岩助  
式拾九歲

(五〇二〇七)

大町濱ならへ代判

彦左衛門方ニ当分罷在候

同日入牢

三拾六歲  
長七

(五〇二〇八)

設樂八三郎御代官所  
攝州西成郡今木新田

重兵衛多病代判  
市次郎借屋

此者共儀、油荷受屋戎嶋船町久藏ル江戸表江積廻し  
候樽詰之油、大坂表江戸積廻船荷物寄屋江南中之町  
下濱半右衛門渡海船を以積送候加子ニ被雇、行衛不知右半  
知右半右衛門下人春藏・大町濱六兵衛油盜取候儀、  
兼々承居候ル惡心発、於海路、岩助者行衛不知右半

嘉永二酉年十一月十八日入牢  
一死罪

牢死

徳兵衛  
(年齢不詳)

右衛門下人熊吉与も申合、沖手ニ出商致候攝州今木  
新田徳兵衛ニ仕形教を請馴合、同人持參り候鑑其外  
道具を以俱々油樽鏡板之詰木を抜取、詰穴江竹之筒  
を差入、樽を斜致し、壺樽ニ付壺合ル式合五六勺  
ツ、凡式拾ヶ度程、長七者右之内式ヶ度申合、都合  
油壺石六斗程盜取、跡詰方者詰木ニ久藏方印之打込

判押有之、抜取候節、相損其儘難用分者徳兵衛持參  
之詰木ニ右打込判ニ見紛候様、煙管之火皿を以打込、  
形を付、印字を認、都而如元取繕置、盜取候油、右  
同類徳兵衛江壳払、代錢遣捨候科、同三戌年二月  
十一日行之

(五〇二〇八)

設樂八三郎御代官所  
攝州西成郡今木新田

重兵衛多病代判  
市次郎借屋

此者儀、南中之町下濱半右衛門方渡海船加子行衛不知  
大町濱六兵衛・同右半右衛門下人春藏ル如何与心  
得候油徳用取可申買取候上、右兩人ニ同意致し、猶  
又新地吾妻橋通式町目岩助并行衛不知右半右衛門下  
人熊吉江者仕形を教、大町濱ならへ代判彦左衛門方ニ  
罷在候長七等夫々申合、戎嶋船町久藏ル江戸表江

積廻し候樽詰油、大坂表江積送候海路ニおるて盜取候儀ニ馴合、此者著小船ニ乗、樽詰木并松やに等賣調、六兵衛・春藏も預り置候油抜取方ニ相用候道具とも持參、沖手ニ出張居、右之者共運送之度毎俱々油樽

鏡板之詰木を抜取、詰穴江竹之筒を差入、樽を斜ニ致し、壺樽ニ付壺合の式合五六勺ツ、數度ニ都合油

式石三斗六升程盜取、跡詰方者詰木ニ久藏方印之打込判押有之、抜取候節、相損難用分者持參之詰木江右打込判ニ見紛候様、煙管之火皿を以打込、形を付、

印字を認、都而如元取縛置、盜油者此者江買取候上壳捌、雜用并充徳錢都合四拾壺貫三百式拾文徳用取候科、存命ニ候ハ、死罪可申付者ニ候段、一件之もの江同三戌年二月十一日申渡候

(五〇二一〇)

嘉永三戌年二月廿五日入牢

無宿  
五郎吉

式拾三歳

此者儀、致盜候付、入墨之上重敲申付候身分不慎、泉州下石津村所左衛門方表口戸明掛り有之内江三ヶ度立入、衣類其外盜取候科、同年五月廿一日行之

(五〇二一一)

嘉永三戌年二月廿五日入牢

無宿

大津の

菊松

武拾壹歳

(五〇二一九)

車之町中濱

嘉永二酉年十二月廿一日入牢

弥兵衛借屋

徳兵衛

五拾四歳

此者儀、致盜候付、入墨敲、其後不届有之、如元入墨之上堺町拵申付候身分不慎、泉州府中村力松方

此者儀、神明町濱源兵衛方外三ヶ所表メリ戸炭火を以焼抜這入、衣類其外盜取、又者町家店先ニ有之候鉄釜盜取候科、同三戌年三月廿九日行之

店先ニ有之候衣類其外盜取候科、同年五月廿一日行

之

同日入牢  
一同

同

力士の  
伊志松  
武拾五歳

(五〇二一一二)

設楽八三郎御代官所  
揖州西成郡吉右衛門  
肝煎地之内堀町  
長兵衛借屋  
一死罪

石  
松

四拾壹歳

(五〇二一一三)

嘉永三戊年四月廿一日入牢  
儀右衛門方ニ当分罷在候  
同町半次郎借屋

由  
松

三拾貳歳

(五〇二一一四)

無宿  
藤吉事  
藤  
藏

此者儀、致銜候付、入墨敲申付候身分不慎、南大小  
路町徳兵衛方江罷越候節、手元ニ有之候衣類帶等盜  
取候科、同年六月十六日行之

(五〇二一一五)

(五〇二一六)

嘉永三戊年四月十一日入牢

無宿

藤  
吉  
武拾五歳

此者共儀、石松者行衛不知無宿藤七申合、南糸屋町  
忠兵衛方表格子木切レを以固辞外し這入、又者此者  
共申合、柳之町利兵衛方外武ヶ所ニ而藤藏・伊志松  
者外見致し、表格子同様固辞外し、石松・由松這入、  
衣類其外金子等盜取候科、同年六月九日行之

(五〇二一七)

嘉永三戌年四月十一日入牢

一死罪

無宿

力 松

武拾四歳

此者儀、致盜候付、入墨之上重敲申付候身分不慎、  
北之端並松拝借地之上、源兵衛方店先ニ有之候鍋釜  
盜取候科、同年六月十六日行之

(五〇二一八)

嘉永三戌年四月十八日入牢

一死罪

無宿

萬在家の

伊 兵 衛

三拾四歳

此者儀、致取逃候付、入墨敲申付候身分不慎、泉州  
菱木村新左衛門外四ヶ所軒下ニ干有之候衣類其外盜  
取候科、同年六月十六日行之

(五〇二三〇)

嘉永三戌年五月九日入牢

一死罪

無宿

和泉の

謙 蔦

武拾歳

此者儀、南糸屋町兵助方表口戸建寄有之候を明ケ、  
式ヶ度立入、都合金武拾壹両・小玉銀七百五拾七匁  
盜取候科、同年六月十六日行之

(五〇二一九)

嘉永三戌年四月十八日入牢

牢 死

無宿

吉 蔵

(年齢不詳)

嘉永三戌年五月十一日入牢

無宿

附木屋の

留 吉

武拾四歳

此者儀、盜又者不届有之、入墨之上重敲并重敲、中

追放、重追放等申付候身分不慎、御構場所江立入、  
新在家町濱庄兵衛方店格子之内ニ有之候衣類其外格  
子之透々手を入、引出し盜取候科、同年六月廿三日  
行之

## (五〇二二二)

嘉永三成年六月十六日入牢  
一死罪

無宿  
隈田の  
重  
拾九歳  
吉

此者儀、致盜候付、入墨之上重敲申付候身分不慎、  
宿院境内清兵衛方外壱ヶ所ニ而表メリ戸木切レを以  
固辞明ケ這入、衣類其外金銀錢等盜取候科、同年八  
月五日行之

## (五〇二二四)

嘉永三成年八月二日入牢  
一死罪

無宿  
良  
三拾八歳

此者儀、致銜候付、入墨敲申付候身分不慎、泉州信  
達市場村長慶寺本堂軒先ニ掛ケ有之候銅樋盜取候  
科、同年十月十一日行之

## (五〇二二五)

嘉永三成年六月廿一日入牢  
一死罪

無宿

天王寺の

定  
三拾武歳  
吉

(五〇二二三)  
嘉永三成年八月二日入牢  
一死罪

無宿  
虎  
吉

武拾歳

此者儀、致盜候付、入墨之上重敲申付候身分不慎、  
当表湊長吏金兵衛居小屋外壱ヶ所ニ而表口戸明掛リ  
有之内江入、又者軒下ニ差置有之候衣類其外盜取候  
科、同年十月十一日行之

(五〇二二一六)

同日入牢  
一同

同  
郡山の  
千代松  
三拾武歳

此者共儀、定吉者盜又者不届有之、大坂町奉行所ニ  
おゐて、入墨之上重敲并重敲、千代松者致盜候付、

奈良奉行所ニおゐて、入墨之上重敲相成候身分、両  
人共不慎申合、又者千代松老人立、車之町中濱善兵  
衛宅外式ヶ所ニ而表口戸明掛り有之内江入、盜致し  
候科、同年十月廿九日行之

(五〇二二七)

無宿

嘉永三年六月廿一日入牢  
一死罪

阿輪の  
濱之助  
武拾九歳

此者儀、致盜候付、敲并入墨之上重敲申付候身分不  
慎、泉州瓦屋村幾右衛門方表口建寄有之戸を明ケ這  
入、錠前無之簞笥引出しニ入有之候銀子盗取候科、  
同年十一月廿五日行之

(五〇二二八)

嘉永三年戊年八月二日入牢  
一死罪

無宿  
佐野の  
専  
藏  
武拾壹歳

(五〇二二九)

無宿

嘉永三年戊年九月二日入牢  
一町中引廻し死罪

牢死  
陶器の  
徳次郎  
(年齢不詳)

(五〇二三〇)

此者儀、致盜候付、大坂町奉行所ニおゐて、入墨之  
上重敲相成候身分不慎、泉州高石村又四郎方裏手壁  
破レ有之処々遁入、椽側ニ有之候錢其外盜取候科、

同日入牢

河内の

同年十月廿九日行之

同

同

安兵衛  
(年齢不詳)

此者共儀、壺人立又者申合、泉州陶器北村久五郎方  
外式拾四ヶ所ニ而表口井土蔵入口メリ戸木切レを以

固辞明ケ這入、又者表口井納屋入口戸明掛リ有之内  
江も入、衣類其外盜取候科、存命ニ候ハ、兩人共町

中引廻し死罪可申付ものニ候段、一件之もの江同年  
十二月十九日申渡候

死罪

存命ニ候ハ、町中引廻し  
之上死罪可申付者ニ  
候段、一件之者江申渡

三人

貳拾三人

三人

入墨敲可申付候處、  
女之儀ニ付、入墨之上過  
怠牢

玄  
二月  
(中略)  
石谷因幡守

存命ニ候ハ、入墨敲  
(朱書)「者」

可申付處ニ候段、一件之  
者江申渡

九人

一堺揚り屋牢舍惣人数 五百貳拾三人  
但酉年入牢 三拾四人  
戌年入牢 四百八拾九人  
町中引廻し獄門

壺人

戌正月々十二月中

存命ニ候ハ、入墨敲  
可申付處、女之儀ニ付、  
入墨之上過怠牢可  
申付者ニ候段、一件之者江  
申渡

壺人

取上、追放可申付者二  
候段、一件之者江申渡

入墨敲可申付処、穢多  
之儀二付、入墨之上泉州  
舳松村之内塙穴穢多  
年寄江引渡、相當之  
仕置可申付旨申渡

壱人

(朱書)「追」  
敲之上放放

壱人  
三人

追放

敲之上元居村を構、所払  
敲

壱人  
七拾武人

敲

敲可申付処、女之儀二付、  
過怠牢

六人

存命二候ハ、入墨敲  
可申付処、穢多之儀二付、  
入墨之上泉州舳松村  
之内塙穴穢多年寄江  
引渡、相當之仕置可  
申付者二候段、一件之  
者江申渡

壱人

(朱書)  
「但過怠牢□□在牢

三人

入墨敲可申付処、拾五歲  
以下之儀二付、入墨

壱人

敲可申付処、拾五歲以下  
之儀二付、過怠牢

壱人

存命二候ハ、刀脇差  
入墨

存命二候ハ、敲可申付者二  
候段、一件之者江申渡

武拾三人

存命二候八、敲可申付処、  
拾五歳以下無宿之儀二付、  
非人手下可申付者二  
候段、一件之者江申渡

壱人

之内塙穴穢多年寄江  
引渡、相当之仕置可  
申付者二候段、一件之  
者江申渡

壱人

泉州払

存命二候八、敲可申付処、  
非人之儀二付、當表長吏共江  
引渡、相當之仕置可申付

壱人

家財取上、居町を構、  
堺兩郷払

式人

敲可申付処、穢多之儀二付、

居村穢多庄屋江引渡、  
相当之仕置可申付旨

式人

雜物取上、居村を構、  
堺兩郷払

三人

申渡

敲可申付処、〔穢多之〕儀二付、

泉州舳松村〔之内〕塙穴

穢多年寄江引渡、相当  
之仕置可申付旨申渡

式人

家財取上、居村を構、  
堺兩郷払

壱人

存命二候八、敲可申付処、  
穢多之儀二付、泉州舳松村

家財取上、堺兩郷払

拾四人

御仕置之沙汰不及旨可

申渡者二候段、一件之者江

申渡

壱人

存命二候ハ、家財取上、  
堺両郷払可申付者二  
候段、一件之者江申渡

弐人

雜物取上、堺両郷払

居村を構、堺両郷払

堺両郷払

所払

堺表ニ罷在間敷旨申渡

弐人 壱人 壱人 壱人

外二

去々酉年牢死

存命二候ハ、堺表ニ罷在  
間敷旨、可申〔渡者〕二  
候段、一件之者江申渡

三人

合四百七拾四人

御赦申渡候者

申口相分出牢

牢死

八人

百五拾五人

九拾弐人

過料可申付處、無宿  
之儀ニ付、於小屋手鎖

壱人

存命二候ハ、敵可申付  
者二候段、一件之者江申渡

壱人

存命二候ハ、旧惡之儀ニ付、

残而

在牢 四拾九人 是者亥年江越

右之外

過怠牢中在中 三人

(朱書)

「此外年を越候牢舍無御座候」

以上

二月

石谷因幡守

右一件、去々酉十一月廿七日令吟味仕候処、遠国引合之者有之、吟味延引仕、當時吟味中御座候

右之通、御座候

二月

吟味六ヶ月以上未済儀、当地町奉行  
申聞候趣、申上候書付

土屋采女正

(朱書)

「十」(朱書)

吟味六ヶ月以上未済書付壹冊、柴田日向守・本多加賀

守差出候付、入御披見候、以上

(内表紙)

「吟味十ヶ月以上吟味未済書付

御扣(朱書)

柴田日向守

本多賀守

付、申上候書付壹通、柴田日向守・本多加賀守差出候

(朱書)「冊」

付、申上候書付壹通、柴田日向守・本多加賀守差出候

日向守掛

幸町三丁目

久兵衛借屋

松兵衛

右三引合候者共

一船積荷物盜売いたし候一件

右二引合候者共

柴田日向守

本多加賀守

町奉行申聞候趣、申上候書付

柴田日向守 本多加賀守

(朱書)「四年以前申」

十ヶ月以上吟味未済去申年二月

書上置候処、落着仕候儀、当地

町奉行申聞候趣、申上候書付

土屋采女正

(朱書)「四年以前申」

十ヶ月以上吟味未済去申年二月書上置候処、落着仕候

(朱書)「冊」

間、入御披見候、以上

三月六日

(内表紙)

「十ヶ月以上吟味未済書上

置候処、相済候付、申上候書付

御扣(朱書)

柴田日向守

本多加賀守

元永井能登守

掛

元水野若狭守

掛

日向守

戸川助次郎知行所  
備中國都宇郡

戸川助次郎知行所  
備中國都宇郡

一之者共驗立、地頭陣屋詰家來

屋吹弥平次宅其外打毀候一件

右二引合候者共

右二引合候者共

右二引合候者共

遠国引合、又者寺社奉行江掛合之儀相済、吟味仕、  
去々酉五月御仕置之儀伺書差上置候処、御下知相  
済、去戌五月十八日落着申渡候

(朱書)

「書面題号之儀、未済書上候節者、戸川助次郎知

行所備中國妹尾村之者騒立候一件与書上申候」

元水野若狭守

日向守掛

右二引合候者

和州平群郡信貴山

孫子寺々中

真言宗

玉藏院隱居

一清僧之身分二而致女犯候一件

右二引合候者

右二引合候者共

右二引合候者共

右二引合候者共

右二引合候者共

右二引合候者共

付、申上候、以上

亥  
一月

柴田日向守  
本多加賀守

(中略)

撰州荒生村穢多磯右衛門外老人

盜致し候一件御仕置、当地町奉行  
相伺候趣、申上候書付

土屋采女正

撰州荒生村穢多磯右衛門外老人盜致し候一件吟味伺書  
壱冊、柴田日向守・本多加賀守差出、御仕置之儀黃紙

下ヶ札を以相伺申候、依之右伺書壱冊入御披見相伺

候、宜御差図被成可被下候、以上

四月六日

(内表紙)

「撰州荒生村穢多磯右衛門外老人

盜致し候一件吟味伺書

掛 柴田日向守

本多加賀守」

(朱書)  
「右被盜主者百姓喜右衛門ニ而、其節重病ニ取合  
罷在、心得違延引相成候趣を以、本文之次第此  
盜致し候一件吟味伺書

撰州荒生村穢多磯右衛門外老人盜いたし候一件吟味

仕候趣、左之通御座候

土屋采女正御役知

撰州東成郡荒生村

穢多

当一月八日入牢  
同月廿二日重病ニ付、下宿所預

同村

磯右衛門

亥三拾壹歳

同断

鶴 松

亥三拾九歳

右之者共、吟味仕候處、磯右衛門者農業、鶴松者履  
物類損しを繕ひ候儀渡世ニ罷在候得共、貧敷相暮難  
渋いたし候余り、磯右衛門儀去戌十二月十八日同州  
赤川村人家納屋入口之戸明掛り有之候内江入、初□  
式石斗畚ニ入有之候儘并担ひ棒老本盜取

当二月朔日此者共申合、同州南大道村人家納屋之壁破レ有之候所々手を入、右内二人有之候麦壳石余・桶三  
搔出盜取

(朱書)

「右被盜主者百姓久兵衛三而、本文之次第申口符合  
仕候」

磯右衛門儀手作米之由申偽、右之内糲を米ニ搗立、三  
斗者兼而知ル人右荒生村穢多喜右衛門江代錢四貫貳百  
文ニ壳払、壳代錢磯右衛門老人立當座ニ遣捨、麦九斗  
与桶三ツ者此もの共致所持罷在、其余之糲麦者持退候  
途中ニ而取落シ、畚并担ひ棒者近辺之川中江取捨候處、  
被逮候由申之候付

(朱書)

「右喜右衛門相糲候処、申口符合仕、米商内渡世い  
たし罷在、盜物与者更ニ不存買取、追々ニ不残往  
來人共江壳渡候趣申立、代錢并壳德錢共差出馴合  
候筋不相聞候得共、磯右衛門壳渡候米者盜物ニ有  
之処、其儀ハ不存とも、出所不糲之米買取候段不

念ニ付、壳徳錢取上、代錢損失可申付与奉存候

一右所持之麦并桶取上置、直横申付候處、銀六拾五  
匁御座候、且糲麦取落し候場所并川中江取捨候品  
等相知不申候」

実者壁を壞チ這入盜取候儀ニ而、右之外ニもメを固辞  
明、致盜候儀も可有之与再応吟味仕候處、曾而左様之  
儀ハ無之由申之候得共、右始末不届之旨吟味詰候處、  
無申披由申之候

右吟味仕候趣、書面之通御座候、御仕置之儀黄紙下ケ  
札を以奉伺候、以上

亥  
三月

柴田日向守  
掛  
本多加賀守

(黄紙)

「此磯右衛門・鶴松儀、磯右衛門老人立、人家納屋  
入口之戸明掛有之内江入致益、又者此もの共申合、  
人家納屋之壁破レ有之所々手を入、麦品等盜取、  
磯右衛門老人立盜取候糲之内、同人壳払代錢遣

捨、其余者所持いたし、又者途中二而取落、或川

中江取捨候始末、不届三付、磯右衛門者入墨之上

重敲、鶴松者敲申付可申付處、穢多之儀三付、磯

右衛門者入墨之上、兩人共當表穢多村年寄江引渡、

磯右衛門者重敲、鶴松者敲相當之仕置可申付旨、

可申渡候哉」

(中略)

柴田日向守出立之儀申上候書付

土屋采女正

柴田日向守様被仰下候付、來ル十日  
爰許出立可仕旨申聞候、以上  
四月六日

四月六日

土屋采女正

御老中五人様

(中略)

泉州松尾寺村寅吉外老人御仕置之儀、以別紙相達候  
間、得其意可被達候、以上

三月廿七日

松平伊賀守

松平和泉守

一此地天神橋御修復切相勤候町奉行両組与力同心江  
御扶持方被下候御証文被遺之、則御藏衆江相渡候儀、

申上候書付壹通

覺

(中略)

一摨州荒生村穢多磯右衛門外壱人盜致し候一件御仕

置、当地町奉行相伺候趣、申上候書付壹通  
但、町奉行共差出候帳面壹冊

(中略)

一柴田日向守出立之儀、申上候書付壹通

(朱書)「六」

右之通、書付都合拾式通・御証文下書式通・帳面式冊

進達之仕候、以上

(朱書)「三」

阿部伊勢守

(中略)

土屋采女正殿

泉州松尾寺村寅吉外老人御仕置  
之儀、以御別紙被仰下承知仕候儀申上候  
書付

石谷因幡守掛

大和守領分

泉州泉郡松尾寺村

寅 吉

敲

同郡内田村

安 蔴

安 蔴

右伺之通、御仕置可被申付候、以上

三月

(中略)

覺

一泉州松尾寺村寅吉外老人御仕置之儀、以御別紙被仰

下承知仕候儀、申上候書付壹通

(中略)

右之通、書付都合四通進達之候、以上

四月十日

土屋采女正

御老中五人様

右之通、書付都合三通進達之仕候、以上  
(中略)

四月十六日

土屋采女正

御老中五人様

泉州松尾寺村寅吉外老人御仕置、  
御下知之通申渡候儀、堺奉行申聞

候趣、申上候書付

土屋采女正

以上  
亥  
四月十二日

(後略)

石谷因幡守

泉州松尾寺村寅吉外老人御仕置、御下知之通申渡候儀、申上候書付堺奉行申聞候、以上

四月十六日

泉州松尾寺村寅吉外老人御仕置、  
御下知之通申渡候儀、申上候書付

石谷因幡守

(前略)

五月々八月迄

〔表紙〕  
一 嘉永四年五月より八月迄 大坂城代土屋氏御用留

「 嘉永四年年  
御用留

石谷因幡守掛

大和守領分

泉州泉郡松尾寺村

敲

同郡内田村

寅  
安  
吉  
歲

土屋采女正

此地市中立廻候無宿并野非人共之内、  
病氣老幼或可及飢餓之者取計方  
之儀二付、町奉行申聞候趣、承置候儀  
申上候書付

右伺之通、御仕置可申付旨御書付之趣、土屋采女正今  
相達奉承知、昨十一日御仕置申渡候、依之此段申上候、  
相達奉承知、昨十一日御仕置申渡候、依之此段申上候、

去戌年違作之國々多、米価高直ニ而諸人致難儀、無宿  
并野非人共追々当地江集、右之内ニ者病氣又者老幼之者  
或者飢餓躰之者不少相聞候ニ付、取計方之儀、別紙之  
通、當地町奉行申聞候、右者差當飢餓ニ茂及候者御救

并市中取締等差掛候儀ニ付、承置候、依之差出候書付  
写<sup>レ</sup>告通入御披見、此段申上置候、以上

五月十六日

町奉行共差出候書付写

大坂表之儀、金銀融通諸色取引專一二而諸国目當二相  
成候場所之趣ニ御座候、然ル處、去戌年之儀、異作之  
國々多、一般三米価高直相成、諸人致難儀候由ニ付而  
者最寄国々等々無宿并野非人共追々当表江集來土着同  
躰之者一同多人數相成、右之内ニ者病氣又者老幼之者  
或者可及飢餓ニも躰之者不少様子相聞、別而不便之至  
ニ而市中之者取繕方之儀、追々申上置候通、品々世話  
仕罷在候儀ニ付、旁取調候処、當表立廻候無宿并野非  
人共、病氣ニ而歩行難相成、倒候次第、望所之者々訴  
出候ハ、於高原溜養生申付候、前々々之仕来ニ而其上  
是迄大火又者水難等ニ逢、身分立所無之難儀致し候節  
之御救小屋取建取統方世話致し遣候、度々之先例も有

之ニ付、夫是ニ引当右無宿并野非人共儀、いまた行倒  
候期ニ不至候逆、其儘差置候筋ニ者有之間敷儀ヲ猶又  
勘弁仕候処、右躰之者共多人数立別所々町家門先等ニ  
イ食物抔乞候内、与風之出来心ニ面目間見合、手元之  
品等盜取候仕儀ニも移易、然而已ならず店セ商ひ之邪  
魔ニ相成、町家おいても迷惑可致儀ニ候上者、此節ら  
組之者廻り先ニ而無宿野非人共之内、病氣又者老幼之  
者或者可及飢餓躰ニ而難儀致し居候者等見掛次第高原  
溜江為召連、尤男女引分ケ同所明キ溜ニ當分差置遣、  
食物其外之儀者外溜預ケ之者同様御役所銀差練を以相  
調、全無宿与も難決、引渡方差支事之分者旧里江引渡  
遣、其余引渡差支候分者追而時合見量、門前払申付候  
ハ、右之者共御救ひ者勿論市中取締ニ茂相成可申与  
奉存候付、右之通取斗候様可仕候哉、此段御内慮相伺  
申候、以上

亥  
五月

參府

柴田日向守  
本多加賀守

覺

此段申上候、以上

五月廿六日

(中略)

柴田日向守・本多加賀守、相伺候摠州荒生村穢多磯右衛門外一人盜致し候一件御仕置之儀、御自分在府中被差出候、則以別紙相達候間、得其意可被達候、以上

五月廿六日

松平伊賀守  
戸田山城守  
牧野備前守  
阿部伊勢守

土屋采女正

五月廿六日

御老中五人様

(中略)

御仕置相伺候者之内相果候儀、  
申上候書付

土屋采女正

土屋采女正殿

柴田日向守懸

本多加賀守

戸田山城守  
牧野備前守  
阿部伊勢守

土屋采女正御役知

摠州東成郡荒生村

穢多

磯右衛門

無宿丹波の米次郎儀、怪敷葉を為給、正氣を為失、又者威之ため脇差抜置、若年之女を及密会、或望人有之附ヶ入、売薬を与へ候中江外品差入、嵩を殖、薬代金致徳用候一件二而、先達而御仕置相伺候者之内、右米次郎儀、去月十六日相果候段、本多加賀守申聞候、

(朱書)「處」

入墨之上  
穢多村年寄江

引渡、重敵

可申付處、

穢多之儀二付、

相當之仕置

可申付旨可

申渡候

右之通、御仕置可被申付候、以上

五月

同村

同

鶴 松

柴田日向守懸

無宿

丹波の

米次郎

右、伺之通、御仕置可被申付候、以上

五月

(中略)

覺

無宿丹波の米次郎、不届之取斗致し候一件御仕置之

儀、柴田日向守相伺候ニ付、右吟味伺書例書等御自分  
在府中被差出之候、則以別紙相達候間、被得其意可被  
達候、以上

五月廿二日

松平伊賀守

松平和泉守

戸田山城守

牧野備前守

阿部伊勢守

土屋采女正殿

右之通、書付都合拾壹通・御証文下書式通、進達之

(中略)

一此地川口木津九條兩船屋向、其外御修復之儀ニ付被

仰下、承知仕候儀、申上候書付壹通

一柴田日向守・本多加賀守、相伺候攝州荒生村穢多磯  
右衛門外老人盜致し候一件御仕置之儀、以御別紙被  
仰下承知仕候儀、申上候書付壹通

一無宿丹波の米次郎不届之取斗致し候一件御仕置之

儀、以御別紙被仰下承知仕候儀、申上候書付壹通

(中略)

仕候、以上

六月六日

御老中五人様

(中略)

柴田日向守・本多加賀守、相伺候

攝州荒生村穢多磯右衛門外一人

盜致し候一件御仕置之儀、以御別紙

被仰下承知仕候儀、申上候書付

(朱書)「則加賀」

土屋采女正

柴田日向守・本多加賀守、相伺候攝州荒生村穢多磯右衛門外一人盜致し候一件御仕置之儀、以御別紙被仰下奉得其意候、○以上

(朱書)「○則加賀守江相渡申候」

六月六日

六月六日

土屋采女正

荒井甚之丞様

長谷川又三郎様

無宿丹波の米次郎不届之取計  
致し候一件御仕置之儀、以御別紙

被仰下承知仕候儀、申上候書付

土屋采女正

無宿丹波の米次郎不届之取計致し候一件御仕置之儀、

柴田日向守相伺候二付、右吟味伺書例書等私在府中進

達之仕候処、御仕置之儀以御別紙被仰下奉得其意、則本多加賀守江相渡候、以上

六月六日

(中略)

以切紙令啓達候、向暑候得共、弥御無実可被成御勤珍重存候、然者柴田日向守・本多加賀守相伺候攝州荒生村穢多磯右衛門外一人盜致し候一件御仕置伺書、拙者在府中致進達候旨之御達書二候得共、右者登坂後、當四月六日附二而致進達候儀<sup>二</sup>御座候<sup>〔朱書〕付</sup>尤御請書等二差響候儀<sup>〔朱書〕之</sup>無御座候得共、為念此段<sup>〔朱書〕</sup>「可」得御意度如是御座候、以上

六月六日

土屋采女正

荒井甚之丞様

長谷川又三郎様

(右文後半ノ上余白ニアル朱書)  
「在府中致進達書之廉者除、御語□致進達候間、宜含

置候様頼入候」

覺

一朝鮮人來聘之御用掛柴田日向守為代、本多加賀守被仰付候間、其段可申渡旨被仰下、則加賀守江申渡候儀、申上候書付壱通

六月十六日

一無宿丹波の米次郎不届之取計致し候一件、御下知之

通御仕置申渡□□、當地町奉行申聞候趣、申上候書付壱通

(朱書)

「但、町奉行差出候書付壱通」

(中略)

(朱書)「十」

右之通、書付都合九通・帳面壱冊進達之仕候、以上

六月十六日

御老中五人様

(中略)

無宿丹波の米次郎不届之取計

致し候一件、御下知之通、御仕置

申渡候儀、「△」申上候書付

(朱書)「△」(当地町奉行申聞候趣)

土屋采女正

土屋采女正

柴田日向守掛

柴田日向守  
參府

本多加賀守  
掛

無宿

丹波の

米次郎

遠嶋

右之通、御仕置可申付旨、御下知之趣奉承知、今七日御仕置可申渡処、当四月十六日病死仕候間、存命ニ候得者右御仕置可申付者ニ候段、一件之者江申渡候、依

無宿丹波の米次郎不届之取計致し候一件、御下知之通御仕置申渡候儀、申上候書付壱通、本多加賀守差出候付、進達之仕候、以上

六月十六日

無宿丹波の米次郎儀、怪敷薬を為給、  
正氣を為失、又者威之ため脇差抜置、  
若年之女を及密会、或望人有之ニ附入、  
壳藥を与候中江外品差入商を殖、藥

代金徳用いたし候一件

御下知之通、御仕置申渡候儀、申上候書付

之申上候、以上

亥  
六月七日

參府

柴田日向守

本多加賀守

荒井甚之丞様  
長谷川又三郎様

本多加賀守差出候書取写

御役知

撰州東成郡荒生村

穢多

磯右衛門

同村

鶴松

以切紙令啓達候、向暑候得共、弥御無実可被成御勤珍重存候、然者柴田日向守・本多加賀守懸、拙者御役知撰州東成郡荒生村穢多磯右衛門・鶴松盜致し候一件御仕置伺書、当四月進達いたし候処、去月廿九日御下知有之候間、則加賀守江申渡候、然廻右鶴松御仕置之儀二付、向後為心得拙者迄内意承り度旨、別紙之通以書取申聞候間、得与取調勘弁いたし候処、鶴松同様之罪科二而入墨之上重敲相成候例、差当り相見不申、容易難及挨拶候間、右一件申渡之儀見合置候様申聞置、此段及御内談候間、否早々被申越候様致し度申渡済申上候儀、延引相成候間、若御沙汰も有之候ハ、宜御取斗頼人及候、此段可得御意、如此御座候、以上

六月十六日  
土屋采女正

右磯右衛門者入墨之上重敲、鶴松者敲可申付処、穢多之儀二付、磯右衛門者入墨之上、兩人共当表穢多村年寄江引渡、磯右衛門者重敲、鶴松は敲相当之仕置可申付旨、可申渡哉与奉伺候処  
磯右衛門・鶴松兩人共、入墨之上穢多村年寄江引渡、重敲可申付処、穢多之儀二付、相当之仕置可申付旨可申渡趣、此度御下知

右者鶴松同罪之者是运当表ニ而者敲相成候度々之例御  
座候間、右ニ見合、本罪当り敲与御仕置附仕候儀ニ付、  
右御仕置当り、篤与俯察仕候処、同類申合候廉歟、又

者壁之破ル手を入候所業、見江掛ヶ之場所等ニ有之品

盜取候輕盜之類与違ひ、戸明之盜之方江寄候筋之者ニ

而、本罪入墨之上重敲相当ニ御座候哉、向後之心得ニ  
も相成候儀ニ付、御内々思召相伺度奉存候事

(中略)

覚

一本多加賀守組同心宇野良右衛門儀、老衰ニ付願之通

御暇申渡、数年無懈怠相勤候ニ付、御褒美被下候段、

御別紙之通被仰下承知仕候儀、申上候書付壹通

(朱書)「当地町」

吟味六ヶ月以上未済儀堺奉行申聞候趣、申上候書付  
壹通

(朱書)「町」

但、堺奉行差出候帳面壹冊

(中略)

右之通、書付都合拾壹通・帳面壹冊進達之仕候、以上  
七月一日

土屋采女正

七月一日

御老中五人様

(中略)

吟味六ヶ月以上未済儀、当地町奉行

申聞候趣、申上候書付

土屋采女正

吟味六ヶ月以上未済書付壹冊、本多加賀守差出候付、

入御披見候、以上

七月一日

御扣(朱書)

(内表紙)  
「吟味六ヶ月以上未済書付

御扣(朱書)

本多加賀守

元柴田日向守掛

無宿

嘉永三庚戌年十二月三日吟味

品川の

寄場逃去候上致盜候趣

惣太郎

相聞候一件  
右一件及吟味候処、重病ニ付吟味延引仕候、

右者六ヶ月以上吟味相済不申候付、申上候、以上

亥  
六月

本多加賀守

(中略)

采女正様より之御剪紙拝見仕候、然者柴田日向守・本多加賀守相伺候。撰州荒生村穢多磯右衛門初筆御仕置之儀、先達而御下知有之候處、右一件之内鶴松御仕置當御承知被成度、本多加賀守差出候書取写被遣、委細被仰下候趣、奉得其意候、鶴松盜之次第者於事実輕盜とハ難申、手元之品を与風盜取候類二者無之訳を以、戸明之盜本罪ニ寄、御差団有之儀ニ御座候、此段可然被仰上可被下候様奉頼候、以上

六月廿九日

長谷川又三郎  
荒井甚之丞

采女正様

御用人中様

(中略)

覚

一此地御太鼓坊主橋本休三儀、数年無懈怠精勤仕候ニ

付、御褒美被下候段、御別紙之通被仰下承知仕候儀、申上候書付壹通

(中略)

一撰州荒生村穢多磯右衛門外老人盜いたし候一件、御下知之通御仕置申渡候儀、当地町奉行申聞候趣、申

上候書付壹通

但、町奉行共差出候書付壹通

右之通、書付都合五通進達之仕候、以上  
七月廿六日

御老中四人様

(中略)

土屋采女正

撰州荒生村穢多磯右衛門外老人

盜いたし候一件、御下知之通御仕置  
申渡候儀、当地町奉行申聞候趣、  
申上候書付

土屋采女正

撰州荒生村穢多磯右衛門外老人盜致し候一件、御下知之通御仕置申渡候儀、申上候書付壹通、本多加賀守差出候付、進達之仕候、以上

七月廿六日

在府  
川路左衛門尉

楫州荒生村穢多磯右衛門

外老人盜致し候一件

御下知之通御仕置申渡候儀、申上候書付

本多加賀守

在府  
川路左衛門尉

(中略) 覚

一通用銀吹直御用取扱柴田日向守御役御免ニ付、代り  
本多加賀守取扱候様可申渡旨、可被仰下承知仕候  
儀、申上候書付壹通

(中略)

一六ヶ月以上吟味未済、去々酉九月書上置候処、申渡  
(朱書)「候」

相済相儀、當地町奉行申聞候趣、申上候書付壹通

但、町奉行共差出候帳面壹冊

入墨之上穢多村

年寄江引渡、重敵

可申付処、穢多之儀ニ付、

相当之仕置可申付旨

可申渡候

同村

磯右衛門

鶴 松

右之通、御仕置可申付旨、御下知之趣奉承知、今十八  
日御仕置申渡候、依之申上候、以上

亥七月十八日

本多加賀守

八月廿六日

土屋采女正

右之通、書付都合拾壹通・御証文下書壹通・帳面八冊・  
絵図四枚、進達之仕候、以上

御老中四人様

(中略)

六ヶ月以上吟味未済、去々酉九月書上

置候處、申渡相済候儀、当地町奉行

申聞候趣、申上候書付

土屋采女正

六ヶ月以上吟味未済、去々酉九月書上置候處、申渡相  
済候付、帳面壹冊本多加賀守差出候間、入御披見候、  
以上

八月廿六日

(内表紙)

「六ヶ月以上吟味未済、去々酉九月書上

置候處、申渡相済候付、申上候書付

御扣(朱書)

本多加賀守

在府

川路左衛門尉

元柴田日向守掛

松平左衛門尉領分

豊後國大分郡萩原村

灘吉丸沖船頭

見候、以上

嘉永二己酉年四月十一日乞吟味  
一贋式朱金遣捌候一件

源吉加子

次郎吉

右三引合候者共

右一件吟味未済之儀、去々酉九月書上置候處、治郎

吉病死仕、未吟味不取締内之儀三付、引合之者共吟

味之不及沙汰旨申渡候

右者先達而書上置候六ヶ月以上吟味書面之通申渡候  
付、申上候、以上

亥  
八月

在府

川路左衛門尉

本多加賀守

亥  
八月

六ヶ月以上吟味未済、去戌十一月

書上置候處、落着仕候儀、當地

町奉行申聞候趣、申上候書付

土屋采女正

六ヶ月以上吟味未済、去戌十一月書上置候處、落着仕  
候付、申上候書付壹冊、本多加賀守差出候間、入御披  
見候、以上

八月廿六日

(内表紙)

「六ヶ月以上吟味未済、去戌十一月書上

置候処、落着仕候付、申上候書付

本多加賀守

在府 川路左衛門尉

亥 八月

本多加賀守

在府 川路左衛門尉

(後略)

右者先達而書上置候六ヶ月以上吟味落着仕候付、申上  
候、以上

元中野石見守掛

同柴田日向守掛

加賀守掛

當時無宿

利兵衛

嘉永三戌年五月四日吟味  
一入墨を焼消候一件

右一件吟味未済之儀、去戌十一月書上置候処、水野  
甲子二郎江間合之儀相済吟味仕、御仕置之儀、土屋  
采女正江相達、差図之上落着申渡候

(朱書)  
「書面題号之儀、未済書上候節者疑敷儀相聞候一件  
与書上申候」